成人看護学（講義６単位・実習４単位）（専門分野）

１．成人看護学の考え方

我が国では、医療の高度化、保健・福祉の充実により平均寿命は延伸し、高齢化が進展している。今後生活習慣病や慢性疾患、認知症を抱える高齢者が増加し、医療・介護の需要が増大する状況が懸念される。一方で出生数減少により少子化が進むとともに生産年齢人口の減少が生じ、国の経済や財政に与える影響は大きい。平均寿命の延伸は、疾病や障害とともに生きる期間の延長を示す。疾病や障害と付き合いながら、自分らしい自立した生活を送り、最期まで尊厳を持って人生を全うすることが重要となる。このような状況に対し、看護は適切な保健・医療・福祉が提供されるとともに、「生活の質」が高まるような関わりが求められる。

成人は身体的に発達・成熟し、精神社会的にも他者や社会との相互作用を通して自我同一性を獲得し、家族を養い、社会のなかで役割を果たす存在である。身体的・精神的・社会的に充実した時期である一方で、複雑な社会状況の変化に伴い過度に外部からの刺激を受けると、内部環境にも影響をもたらし、様々な健康障害を起こす可能性がある。また、成人の生活習慣は他者や社会環境から影響を受け、揺るぎないものとなる。よりよい生活習慣は健康的な身体や人格をつくり出すが、不規則で偏った生活習慣は病気を生み出す。長年の経験の積み重ねより生活習慣となったものを変更することは容易ではない。動機付けや行動変容によって健康生活の意義を見出し生活習慣を変更することや、健康障害が生じた場合に回復のための行動が起こせるよう成人を対象とした学習を行っていく必要がある。

成人期においては、今後迎える高齢社会に適応できるよう健康寿命の延伸に向けた関わりが重要であり、健康の維持・増進、疾病の重症化や事故の予防が必要となる。健康を保つための知識、行動や習慣を身につけ、健康課題に適切に対処できるセルフケア能力を高めるよう支援する。同時に急性期医療の場面では、患者の生命を救い、回復期・慢性期を経て安心して生活できる状態までの過程を教授する。また、治療効果が期待できず終末期となった患者に対し、その人が穏やかな最期を迎えられるよう苦痛や不安の軽減、家族に対する看護を学ぶ。

２．目的

成人期の特徴をふまえ、健康の保持増進の為のセルフケア能力の増強をはかる。また、健康問題をもつ対象については、回復を促しそれぞれの健康段階に応じた、看護の役割と機能について理解を深める。また、人生の最期のときを支える為の看護の目的、役割を学ぶ。

３．目標

１）成人期の対象を理解する。
２）成人期における健康問題の現状とその原因を考え、看護の果たす役割を理解する。
３）成人期の健康障害をもつ対象のおかれた状況（経過）に応じた看護が展開できる能力を身に付ける。
４）成人期の対象と家族に対する看護を考え実施する。

４．科目

成人看護概論	経過別看護実践のプロセス
経過別看護	周術期看護
機能障害のある患者の看護	がん看護

専門分野・成人看護学　授業計画

授業科目及び時間数	成人看護概論　1 単位　30 時間		
開講時期	1 年次　後期		
担当教員	黒川みゆき	実務経験	有

＜科目のねらい＞

成人期にある対象の特徴と成人期の生活の中で特徴的な健康問題について理解し、健康の保持増進に向けた看護のあり方について理解できるようになることがねらいとする。

＜到達目標＞

1. ライフサイクルからみた成人期の位置づけと意義、成人各期の成長・発達・健康障害について理解できる。
2. 成人期の健康の特徴と健康の保持・疾病予防について理解できる。
3. 成人看護学実習で活用する理論・モデルを学び、健康教育の方法について理解できる。

授業計画・内容・担当教員

1 回目 2 回目	1. 成人看護学ガイダンス 2. 成人と生活 1）対象の理解　2）対象の生活	講義
3 回目	1. 生活と健康 1）成人を取り巻く環境と生活からみた健康 2）生活と健康をまもりはぐくむシステム	講義
4 回目 5 回目	1. 成人への看護アプローチの基本 1）生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助 2）人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 3）チームアプローチ 4）看護におけるマネジメント 5）看護実践における倫理的判断 6）家族支援	講義
6 回目	1. ヘルスプロモーションと看護 2. 健康を脅かす要因と看護	講義
7 回目	1. 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 2. 障害がある人の生活とリハビリテーション	講義
8 回目	1. 慢性病との共存を支える看護 2. 人生の最期の時を支える看護	講義
9 回目 10 回目	1. 学習者である患者への看護技術 1）エンパワメント-エデュケーション 2）セルフマネジメントを推進する看護技術	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
11 回目 12 回目	1. 健康指導　指導計画書の作成 2. プレゼンテーション	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
13 回目 14 回目	1. リフレクション	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
15 回目	筆記試験	

評価方法	筆記試験　50%・ポートフォリオによるルーブリック評価　50%
受講生に対するメッセージ	成人看護学実習の基礎となる学習内容であるため、一つ一つの演習を確実に学習し実習の足掛かりとしてほしい。
テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学総論　医学書院
参考書	事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門　第 2 版　　日総研 国民衛生の動向　2022/2023

専門分野･成人看護学 授業計画

授業科目及び時間数	経過別看護　1 単位　30 時間		
開講時期	2 年次　前期		
担当教員	黒川みゆき・萱場健雄 横山礼・渡邉美佐子	実務経験	有

＜科目のねらい＞

本授業では、経過別看護として急性期・周術期・リハビリテーション期・慢性期・終末期における患者や看護の特性、必要なケアについて学ぶことをねらいとする。

＜到達目標＞

1. 患者を健康段階の変化の過程にある存在として捉え、各経過における看護の特徴について理解できる。

授業計画・内容・担当教員		
1 回目 2 回目	1. 急性期にある患者の看護 1）健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 2）健康生活の急激な破綻 3）急性期にある人の看護	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（萱場）
3 回目	1. 救急看護 1）救急看護の概念 2）救急看護の対象の理解 3）救急看護体制と看護の展開 4）救急患者の観察とアセスメント	講義（萱場）
4 回目	1. 集中治療を受ける患者の看護 1）集中治療・看護の概念と役割 2）集中治療室 3）集中治療における看護の実際	講義（萱場）
5 回目 6 回目	1. 周術期にある患者の看護 1）周術期看護の概論 2）手術全患者の看護 3）手術中患者の看護	講義（横山）
7 回目 8 回目	1. 周術期にある患者の看護 1）手術後患者の看護	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（萱場）
9 回目 10 回目	1. リハビリテーション看護 1）リハビリテーション看護概論 2）リハビリテーション看護の定義と専門家 3）リハビリテーション看護の対象 4）リハビリテーション看護の方法	講義（黒川）
11 回目 12 回目	1. 慢性期にある患者の看護 1）慢性病患者の理解 2）慢性病との共存を支える看護実践	講義（黒川）
13 回目 14 回目	1. 終末期にある患者の看護 1）緩和ケアの現状と展望 2）緩和ケアにおけるチームアプローチ 3）緩和ケアにおけるコミュニケーション 4）緩和ケアにおける倫理的課題 5）全人的ケアの実践	講義（渡邉） 緩和ケア認定看護師
15 回目	終了試験	（黒川）
評価方法	筆記試験　100%　（横山 15%　渡邊 15%　萱場 40%・黒川 30%）	
受講生に対するメッセージ	この授業は、3 年次の成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱにつながる授業である。学んだことを実習で活用できるよう、積極的に授業に取り組んで欲しい。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学総論　医学書院 系統看護学講座　別巻 救急看護学・臨床外科総論・リハビリテーション看護・緩和ケア　医学書院	
参考書	系統看護学講座　専門分野　臨床看護総論　医学書院 系統看護学講座　別巻　クリティカルケア看護学　医学書院	

専門分野・成人看護学　授業計画

授業科目及び時間数	機能障害のある患者の看護　1 単位　30 時間		
開講時期	2 年次　前期		
担当教員	萱場健雄　白鳥智美	実務経験	有

＜科目のねらい＞
　看護が働きかける対象は疾病や臓器ではなく、疾病により様々な機能障害を抱え、それぞれの機能に特有な生命の危機、あるいは生活上の障害を併せ持っている人である。本授業では、機能障害のある患者の看護を展開する上で必要な知識を学ぶことをねらいとする。
＜到達目標＞
機能障害のある患者の回復・健康の維持に向けた看護を展開する上で必要な知識を理解できる。

授業計画・内容・担当教員		
1 回目	1.循環・呼吸機能障害のある患者の看護 1）循環機能障害のある患者の看護 心不全・虚血性心疾患・不整脈 2）呼吸機能障害のある患者の看護 肺がん・COPD	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（萱場）
2 回目		
3 回目		
4 回目		
5 回目		
6 回目		
7 回目	1.脳・神経機能障害のある患者の看護 脳血管障害・脳腫瘍・髄膜炎	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（萱場）
8 回目		
9 回目	1.栄養代謝機能障害のある患者の看護 肝炎・肝硬変・肝がん	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（白鳥）
10 回目		
11 回目	1.消化吸収機能障害のある患者の看護 胃がん・大腸がん（選択）	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（白鳥）
12 回目		
13 回目	1.内分泌機能障害のある患者の看護 甲状腺機能亢進・低下症、下垂体腫瘍	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（白鳥）
14 回目	1.身体防御機能障害のある患者の看護 血液悪性疾患	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（白鳥）
15 回目	終了試験	（白鳥）
評価方法	筆記試験　100％	
受講生に対するメッセージ	この授業は、3 年次の成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱにつながる授業である。学んだことを実習で活用できるよう、積極的に授業に取り組んで欲しい。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　循環器　医学書院 系統看護学講座　専門分野　呼吸器　医学書院 系統看護学講座　専門分野　脳・神経　医学書院 系統看護学講座　専門分野　消化器　医学書院 系統看護学講座　専門分野　内分泌・代謝　医学書院 系統看護学講座　専門分野　血液・造血器　医学書院	
参考書		

専門分野・成人看護学　授業計画

授業科目及び時間数	経過別看護実践のプロセス　1 単位　30 時間		
開講時期	2 年次　後期		
担当教員	黒川みゆき・萱場健雄 小川裕介・我妻ひと美・黒田沙織・	実務経験	有

＜科目のねらい＞
本授業では、経過別看護・機能障害のある患者の看護での学びを活用し、より実践的な看護について学ぶことをねらいとする。
＜到達目標＞
各健康段階における看護問題の解決に向けた思考過程を養い、実践的な看護について理解する。

授業計画・内容・担当教員		
1 回目 2 回目	1. ICU 1）生命の危機的状態にある患者の病態変化を予測した重篤化の予防 2）廃用症候群などの二次的合併症の予防及び回復のための早期リハビリテーション	講義（小川）
3 回目 4 回目	1. 救急看護 1）救急医療現場における病態に応じた救命技術 2）危機状況にある患者・家族への早期介入及び支援	講義（萱場）
5 回目 6 回目	1. 脳卒中とリハビリテーション 1）脳卒中患者の重篤化を予防するためのモニタリングとケア 2）活用維持・促進のための早期リハビリテーション 3）急性期・回復期における生活再構築のための機能回復支援	講義（黒川）
7 回目 8 回目 9 回目	1. 糖尿病看護 1）糖尿病の概要　食事療法・運動療法について 2）インスリン療法について　（自己注射体験） 3）糖尿病とがん　（血糖測定体験）	講義・演習（我妻） 糖尿病看護認定看護師
10 回目 11 回目 12 回目 13 回目 14 回目	1. 透析看護 1）腎不全治療の概要 2）透析看護に必要な技術 3）透析患者の看護　保存期・導入期・維持期 4）透析困難患者の看護 5）事例検討	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（黒田） 透析看護認定看護師
15 回目	終了試験	（黒川）
評価方法	筆記試験　100%　（萱場 15%・黒川 15%　小川 15%　黒田 35%　我妻 20%）	
受講生に対するメッセージ	この授業は、3 年次の成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱにつながる授業である。学んだことを実習で活用できるよう、積極的に授業に取り組んで欲しい。	
テキスト	系統看護学講座　別巻　クリティカルケア看護学　医学書院 系統看護学講座　専門分野　脳・神経　医学書院 系統看護学講座　専門分野　内分泌・代謝　医学書院 系統看護学講座　専門分野　腎・泌尿器　医学書院	
参考書		

専門分野・成人看護学　授業計画

授業科目及び時間数	周術期看護　1 単位　30 時間		
開講時期	2 年次　後期		
担当教員	萱場健雄	実務経験	有

＜科目のねらい＞

手術は侵襲を伴う治療法である。手術後の経過により入院期間の延長や社会復帰への遅延、予後が左右される。患者・家族ともに治療に伴う不安や恐怖は大きく、看護師は全人的な患者理解に努め意思決定の支援をしている。本授業では周術期の患者に必要な看護について学ぶことをねらいとする。

＜到達目標＞

1. 周術期における患者の特性を理解し、手術過程に応じた看護を実施できる。

授業計画・内容・担当教員		
1 回目	1. オリエンテーション	講義
2 回目 3 回目	1. 術前看護	講義・演習
4 回目	1. 術中看護　アセスメント	講義・演習
5 回目 6 回目 7 回目	1. 術直後　必要な看護を考える アセスメント 術直後観察	講義・演習
8 回目	1. 術後ベッド作成	演習
9 回目 10 回目	1. 術直後の観察	演習
11 回目 12 回目	1. 術後　退院に向けて指導・教育 アセスメント 指導用具等作成	講義・演習
13 回目	1. 退院指導の実践・評価	演習
14 回目	1. ガウンテクニック	演習
15 回目	終了試験	

評価方法	筆記試験　100％
受講生に対するメッセージ	周術期看護は、3 年次の成人・老年看護学実習Ⅰにつながる授業である。学んだことを実習で活用できるよう、積極的に取り組んで欲しい。
テキスト	系統看護学講座　専門分野　臨床看護総論　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学総論　医学書院 系統看護学講座　別巻　クリティカルケア看護学　医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床外科総論　医学書院 系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　医学書院
参考書	

専門分野・成人看護学　授業計画

授業科目及び時間数	がん看護　1 単位　15 時間		
開講時期	2 年次　後期		
担当教員	朝日恵美・黒川みゆき	実務経験	有

＜科目のねらい＞

がん医療は日々進歩し、患者を中心とした個別化医療も進んでいる。患者とその家族は病態や治療についての知識を学び、治療過程や予後について理解した上で治療やケアに取り組む必要がある。本授業では、患者が治療過程を安全・安楽に過ごし、セルフケアを促進させる看護について学ぶことをねらいとする。

＜到達目標＞

1. がんの病態や診断・治療、がん患者の身体的・精神的・社会的苦痛を総合的に捉え、根拠に基づく看護を理解できる。
2. がん医療の進歩に対応し、新しいがん看護の実践とその根拠について理解できる。

授業計画・内容・担当教員

1 回目	1. がん医療の現在と看護	講義（黒川）
2 回目 3 回目	1. がん患者の看護 1）がん患者の苦痛に対するマネジメント 2）がん患者の心理的サポート 3）がんの予防と早期発見	講義（黒川）
4 回目 5 回目 6 回目	1. がん治療に対する看護 1）がん治療における看護の重要性 2）がん手術療法における看護 3）放射線療法における看護	講義（黒川）
7 回目	1. がん治療に対する看護 4）薬物療法における看護	講義（朝日） がん化学療法看護認定看護師
8 回目	1. がん治療の場と看護 1）外来がん看護 2）がん患者の療養支援	講義（黒川）
評価方法	筆記試験　100%（朝日 10%　黒川 90%）	
受講生に対するメッセージ	この授業は、3 年次の成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱにつながる授業である。学んだことを実習で活用できるよう、積極的に授業に取り組んで欲しい。	
テキスト	系統看護学講座　別巻　がん看護学　医学書院	
参考書		

地域・在宅看護論（講義 6 単位　実習 5 単位）（専門分野）

１．地域・在宅看護論の考え方

他国に類をみない早さで進展する少子・超高齢社会への移行及び疾病構造の変化に伴い、医療機関は治療に特化し、地域で生活しながらリハビリテーション、症状のコントロール、看取りなどの支援が必要となっている。これまでの、「治す医療」から「治し支える医療」へ転換し、住み慣れた地域で、自分らしい生活を人生の最後まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの推進に向け、多様な場でのケアが必要となる。各種サービス機関と多職種がチーム医療を展開することが求められる。

地域・在宅看護は、地域で生活するすべての人が自宅やそれに準じた環境で生活できるよう、症状に応じた適切な医療の提供、相談、指導、のぞむサービスの提供、生涯にわたる健康づくりの支援をすることである。それは、保健・医療・福祉のあらゆる面から対象およびその家族に対して、「生活の質」の向上を目指す支援となる。

人間としての奥深さを理解し、地域で生活し続けることができるよう、ケアマネジメントを学び、自己決定や生活の再構築を支援していく方法を学習する。各健康段階に応じた適切な看護ができるよう、対象を取り巻く環境やシステム、人的・物的資源の活用、地域のネットンワークの構築に向けても専門性を発揮し役割を担えるよう学習を進めていく。

２．目的

地域で生活する人々、地域で生活しながら療養生活をする人々、あるいは障がいをもちながら生活する人々とその家族を理解し、それぞれの環境に準じた場で生活できるよう看護（支援）することを学ぶ。

３．目標

１）地域で生活する人々の健康と生活を支える看護を知る。
２）地域・在宅看護論の目的・特性を理解する。
３）在宅療養生活する対象や家族の自己決定権を尊重しながら、その人らしい生活を支援する重要性を理解する。
４）在宅療養生活する対象や家族を支える社会資源の活用及び多職種との連携や協働の必要性を理解する。
５）対象、環境に応じた在宅看護実践の技術を学ぶ。
６）対象の療養状態に応じた看護・継続看護を実施する。

４．科目

地域・在宅看護概論	地域で生活する人々を支える看護
地域で生活する人々の環境と看護	地域で生活する人々を支える看護実践プロセス
地域で生活する人々を支える看護技術	チーム医療論

専門分野　地域・在宅看護論　授業計画

授業科目及び時間数	地域・在宅看護概論　1 単位　15 時間		
開講時期	1 年次　前期		
担当教員	大石敦子・大畑浩美	実務経験	有

＜科目のねらい＞

療養の場における看護は、社会の変化に伴い刻々と変化していく制度や地域包括ケアシステムを基盤とし、地域全体を見渡し、ケアを展開する役割を期待されている。このような役割を理解するためには、地域で生活する人々について理解し、その人々を支援することを学ぶ必要がある。これまでの看護の変遷やその社会背景をはじめ、生活する人々を支える看護の目的・基本的な理念や関連する概念を理解し、対象と家族を含めた支援の在り方を知る。

＜到達目標＞

1. 地域で生活する人々を知る。
2. 生活する人々への支援を通し、地域・在宅看護の機能と役割を理解する。

授業計画・内容・担当教員		
1 回目	1. 地域・在宅看護が必要とされる社会的背景と役割	講義（大畑）
2 回目	1. 生活と看護 ・看護の対象と場 （看護の対象としての家族、家族理論の理解） 2. 環境と健康	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ （大畑）
3 回目	1. 地域・在宅看護の倫理と基本理念、対象者の権利保障	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ （大畑）
4 回目	1. 地域・在宅看護における療養の選択	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ （大畑）
5 回目	1. 地域・在宅看護の目的と役割	講義（大畑）
6 回目	1. 地域・在宅看護の提供方法及び意思決定支援 2. 療養の場の移行	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ （大石）
7 回目	1. 地域・在宅看護の制度 2. 発展の経緯とケアマネジメント 3. 介護保険制度 4. 訪問看護制度・訪問看護サービスの提供	講義・演習（大畑）
8 回目	終了試験	（大畑）

評価方法	筆記試験 100%
受講生に対するメッセージ	授業は個人ワーク、グループワークを中心に行う。このワークでの学びが試験評価に反映されるので、積極的に取り組んでほしい。
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論 1　地域・在宅看護の基盤　医学書院
参考書	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論 2　地域・在宅看護の実践　医学書院

専門分野　地域・在宅看護論　授業計画

授業科目及び時間数	地域で生活する人々の環境と看護　　1単位　30時間		
開講時期	2年次　前期		
担当教員	大畑浩美	実務経験	有

＜科目のねらい＞

在宅の環境は個別性に富む。療養者の疾患や障害も多様であり、療養者と家族の生活様式もさまざまである。こうした療養者と家族の個別性を尊重しながら、生命活動、生活活動、そして社会活動を可能にするような働きかけが必要となる。まずは、人の生活を中心とした環境の変化を捉え、環境と人の生活との相互作用や、環境が人の生活と健康に与える影響とその対策について学習を深める。地域の調査を通し地域の特性と人々の健康について探求する。

＜到達目標＞

1. 人の生活にかかわる環境の変化について説明できる。
2. 生活環境が人の健康に与える影響と支援を具体的な例を通して説明できる。
3. 調査から課題をみつけ、解決に向けて提案ができる。

授業計画・内容・担当教員

1回目	1. 地域（静岡市）の健康、福祉について （健康な暮らしと環境/オリエンテーション）	講義・演習
2回目	健康と環境のアセスメント＜調査準備＞	講義・演習
3回目	健康と環境についてのフィールド調査	演習
4回目	健康と環境についてのフィールド調査	演習
5回目	健康と環境についてのフィールド調査	演習
6回目	フィールド調査、内容の検討、 関係者機関に交渉しつつ内容の調整充実	講義・演習
7回目	地域の健康支援を学ぶ 調査する関係者機関に交渉しつつ内容の調整	講義・演習
8回目	健康支援の実際（現場）	演習
9回目	健康支援の実際（現場）	演習
10回目	健康支援の実際（現場）	演習
11回目	健康支援の実際（現場）	演習
12回目	課題の探求	演習
13回目	健康支援の実際（現場）	演習
14回目	まとめ	演習
15回目	地域（静岡市）にまなぶ健康支援の実際とより健康な生活に向けての提案（プレゼン）	プレゼンテーション

評価方法	パフォーマンス評価（70%）レポート（30%）
受講生に対するメッセージ	講義・演習を含む科目であり、グループワークが中心となる。外部施設に出向き体験をする内容なので、その場、状況に応じた身なり、言葉遣い、学習姿勢で臨んでほしい。さらに、この演習の取り組み態度評価にピア評価を取りいれていく。
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論1　地域・在宅看護の基盤　医学書院
参考書	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論2　地域・在宅看護の実践　医学書院

専門分野　地域・在宅看護論　授業計画

授業科目及び時間数	地域で生活する人々を支える看護技術　1 単位　30 時間		
開講時期	2 年次　前期		
担当教員	大坪千秋・杉山佳菜子・大畑浩美	実務経験	有

＜科目のねらい＞

在宅の環境は個別性に富む。療養者の疾患や障害も多様であり、療養者と家族の生活様式もさまざまである。こうした療養者と家族の個別性を尊重しながら、療養者の身体的・生理的基盤である生命活動、生活の基盤となる生活活動、そして社会活動を可能にするような働きかけが必要となる。その働きかけの基礎となる在宅看護実践の基本的技術を学ぶ。

＜到達目標＞

・在宅看護の目的・特性を理解し、対象や環境に合わせた在宅看護実践の基本技術を身につける。

授業計画・内容・担当教員		
1 回目	1. 療養者や家族を支援するためのコミュニケーション 1）在宅看護（訪問看護）で心がけること：訪問時のマナー	講義・演習（大坪）
2 回目	1.　在宅におけるフィジカルアセスメント 1）観察、フィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメント 2)症状、徴候のアセスメント（心不全・意識障害など）	講義・演習（大坪）
3 回目	1. 生活環境の調整技術 2. 在宅での移動・移乗の特徴 3. 在宅における移動・移乗の介助に関するポイント	講義・演習（大坪）
4 回目	1 排泄（摘便）及び栄養改善のケア	講義・演習（大坪）
5 回目	1. 輸液	講義・演習（大坪）
6 回目	1. 在宅中心静脈栄養法	講義・演習（大坪）
7 回目	1. 褥瘡予防、褥瘡処置	講義・演習（杉山）
8 回目	1. ストーマ管理	講義・演習（杉山）
9 回目	1. 在宅人工呼吸療養・非侵襲的陽圧喚起療法	講義・演習（大畑）
10 回目	1. 在宅酸素療法	講義・演習（大畑）
11 回目	1. 疼痛緩和	講義・演習（大畑）
12 回目	1. 地域リハビリテーション推進センター（通称；リハパーク）見学	演習（リハパーク講師）
13 回目	1. 生活演習（入浴介助含む）	演習（大畑・大坪）
14 回目	1. 見学・演習のまとめ及び発表会	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ
15 回目	終了試験	（大畑）
評価方法	演習レポート（10%）終了試験（大畑 10% 大坪 70% 杉山 10%）	
受講生に対するメッセージ	講義・演習を含む科目となる。また、グループワークを中心に展開していく。自らの意見を積極的に発言できることを希望する。外部施設に出向き体験もある。その場に応じた身なり、言葉遣い、学習姿勢で臨んでほしい。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論 1　地域・在宅看護の基盤　医学書院	
参考書	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論 2　地域・在宅看護の実践　医学書院	

専門分野　地域・在宅看護論　授業計画

授業科目及び時間数	地域で生活する人々を支える看護　1 単位　30 時間		
開講時期	2 年次　後期		
担当教員	大畑浩美・増田恵美・丸山久美子・原との子 ・成澤義郎・大坪千秋	実務経験	有

＜科目のねらい＞

在宅看護における安全と健康危機管理について学び、日常生活援助ならびに医療的援助に活かせるようにする。また、様々な事例から、療養者と家族、それらを取り巻く環境と状況に応じた看護の実際を学び、既存の知識を応用し、多職種と連携することで看護の実施に結びつけることができることを理解する。

＜到達目標＞

1. 在宅で療養生活をする対象に応じた看護と家族（介護者）への看護を理解する。
2. 在宅療養を支える社会資源の活用と多職種との連携の必要性を理解する。

授業計画・内容・担当教員		
1 回目	1.　在宅療養生活の特徴 「済生さんが安全に奥さんと共に療養生活を送れるために、パンフレットおよびマニュアルを作成しよう!」 1）済生さん宅を訪問しよう!」 2)「済生さんが安全かつ確実に薬を飲めるよう工夫しよう！」 3)「プロの技を提供しよう!おむつの当て方と爪切り編」 4)「大切な人を感染症から守ろう!」 5)「さあ大変!災害に向けての準備及び対応を考えよう」	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
2 回目	1. パンフレットおよびマニュアル作り	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
3 回目	1. 発表会	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ
4 回目	1. 在宅看護の制度 （介護保険制度・訪問看護制度・訪問看護サービスの提供） 2. 発展の経緯とケアマネジメント	講義
5 回目	「あなたなら自分の最後をどう過ごしたいですか?」 1. 人生の最終段階を迎えた方への看護を考える	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（増田）
6 回目	1. 人生の最終段階を迎えた方への看護の展開	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（増田）
7 回目	「おじいちゃんが夕方になると徘徊しているの、どうしたらいい」と相談されたらどうする?　　1. 認知症で療養する対象の看護	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（大坪）
8 回目	1. 認知症で療養する対象の看護の展開	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（大坪）
9 回目	「治療法が見つからない病気にかかってしまったら…」どうする。 1. 神経難病で療養する対象の看護	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（丸山）
10 回目	1. 神経難病で療養する対象の看護の展開	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（丸山）
11 回目	「訪問したら、お家の中がぐちゃぐちゃ!片づけられないで居る」 1. 精神障がいで療養する対象の看護	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（成澤）
12 回目	1. 精神障がいで療養する対象の看護の展開	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（成澤）
13 回目	1. 療養する小児への看護	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（原）
14 回目	1. 療養する小児への看護　事例を使って社会資源を知ろう	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
15 回目	終了試験	（芝口)）
評価方法	パンフレット・マニュアル作成（個人 10%/・ｸﾞﾙｰﾌﾟ 10%･ﾌﾟﾚｾﾞﾝ 5%）講師担当（各 15%）	
受講生に対するメッセージ	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸを中心に進めていく講義となる。各自主体的に取り組んでほしい。この科目は 5 名の外部講師を招いての講義となる。今現場で起こっていること、体験談、トピックスを織り込でのお話も聞ける貴重な機会となることを意識して臨んでほしい。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論 1　地域・在宅看護の基盤　医学書院	
参考書	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論 2　地域・在宅看護の実践　医学書院	

専門分野　地域・在宅看護論　授業計画

授業科目及び時間数	地域で生活する人々を支える看護実践プロセス　1単位　30時間		
開講時期	2年次　後期		
担当教員	大畑浩美	実務経験	有

＜科目のねらい＞

地域の特性を知り、その地域で暮らす、在宅療養者とその家族が、疾病や障害による機能的な制約や困難がありながらも保健・医療・福祉の支援や地域社会の協力を得てその人らしく生活を送っていいけるよう、看護の展開方法を具体的に学ぶ。

＜到達目標＞

1. 在宅看護の展開方法が理解できる。
2. 在宅で療養生活を送る対象に応じた看護がわかる。

授業計画・内容・担当教員		
1回目	1. 地域連携システム」における看護機能と役割を理解する。頭づくりをしよう！	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
2回目	1. データより地域住民（静岡市）の生活/健康状況や地域住民の生活を支える社会資源を知る	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
3回目	1. データより地域住民（静岡市）の生活/健康状況や地域住民の生活を支える社会資源を知る	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
4回目	発表会	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ
5回	訪問看護制度と機能を理解するための頭づくりしよう！ 1. 在宅看護に関する制度 介護保険/医療保険制度/障害者支援制度	講義・演習
6回目	1. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割 「静岡型地域包括ケアシステムとは」	静岡市出前講義
7回目	1. 在宅看護に関する制度及び地域包括ケアシステムにおける看護の役割　まとめ及び知識の確認	演習
8回目	1. 療養移行支援 ・病院の病床機能とその看護の特徴/療養移行支援の基本	講義・演習
9回目	1. 訪問看護の制度と機能 ・在宅療養への移行支援	講義・演習
10回目	1. 在宅看護における家族支援 ・家族のアセスメント方法、支援方法	講義・演習
11回目	1. ケアマネジメントの展開 ・ケアマネジメントの目的と機能、提供方法、 多職種との連携方法	講義・演習
12回目	1. 在宅看護過程の展開 看護過程の目的、特徴、展開方法	講義・演習
13回目	1. 在宅看護過程の展開 看護過程の目的、特徴、展開方法	講義・演習
14回目	1. 在宅看護過程の展開 看護過程の目的、特徴、展開方法	講義・演習
15回目	終了レポート作成・実習オリエンテーション	試験・講義
評価方法	・終了レポート「在宅で療養する方を支援するために必要なこと」A4 1枚程度（40%） ・看護過程（演習課題）60%	
受講生に対するメッセージ	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸは統計資料を読み解いて課題を見つける力の育成を図る。ｸﾞﾙｰﾌﾟで協力しながら進めていくことが必要となる。積極的に意見交換をしてほしい。看護過程演習は実習で培った知識を統合し応用することが求められる。全講義出席できることが望ましい。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論1　地域・在宅看護の基盤　医学書院 系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論2　地域・在宅看護の実践　医学書院	

専門分野　地域・在宅看護論　授業計画

授業科目及び時間数	チーム医療論　1 単位　15 時間		
開講時期	3 年次　前期		
担当教員	大畑浩美	実務経験	有

＜科目のねらい＞
　対象の健康、生活を守る保健医療福祉の提供に向けて、お互いの職の専門性を活かしながら、対象の目標達成にむけて、多職種が連携し、目標の実現を目指す力を身につける
＜到達目標＞
1. 多職種の役割と責務について多職種と共有する。
2. 対象者中心の倫理観をもつ。
3. 対象の目標を共有するため、多職種間のコミュニケーション能力を身につける
4. 対象者の目標達成のために、多職種と共に考えることができる。
5. 多職種連携・協働にむけ今後の展望を語れる。

授業計画・内容・担当教員

1 回目	1. 他職種の役割・機能の理解	講義
2 回目	1. 看護師の役割機能と連携を考える。	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
3 回目	1. 他職種の専門職者から活動及び協働の実際を学ぶ ・薬剤師・診療放射線技師・管理栄養士 ・介護福祉士　　作業療法士	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
4 回目	1. 他職種の専門職者から活動及び協働の実際を学ぶ ・薬剤師・診療放射線技師・管理栄養士 ・介護福祉士　　作業療法士	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
5 回目	1.　他職種の専門職者から活動及び協働の実際を学ぶ ・薬剤師・診療放射線技師・管理栄養士 ・介護福祉士　　作業療法士	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
6 回目	1. 専門連携学習 準備、実際	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
7 回目	1. 専門連携学習 実際、成果まとめ ２. 看護師の役割の考察	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
8 回目	終了試験	

評価方法	筆記試験 100%
受講生に対するメッセージ	授業は個人ワーク、グループワーク、演習を含めて行う。積極的に取り組んでほしい。
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論１　地域・在宅看護の基盤　医学書院
参考書	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論２　地域・在宅看護の実践　医学書院

小児看護学（講義４単位・実習２単位）（専門分野）

１．小児看護学の考え方

小児医療の急速な発展のなかで小児看護は、胎生期から成人の移行期までを連続性のある対象ととらえ、各時期のニーズに応じた支援の提供が求められている。看護実践の場も多様化し、新生児集中治療室や小児救急などでは、高度に専門化された看護がおこなわれている。地域では、精神遅滞・情緒障害・肢体不自由児などが多くの時間を家庭で生活しており、サポートが必要な状況である。また、急性期の周手術期の看護のみならず、長期的に障害を有す可能性のある疾患をもつ小児と家族への継続的な看護の必要性が重要視され、包括的ケアへと発展している。

そこで、小児看護学では、あらゆる発達段階と健康段階に応じた看護を理解するために、多様な状況にある小児と家族を設定し、それぞれの状況の中で、小児と家族へどのような看護が必要なのかを理解するための基礎的知識を学ぶ。その過程で、小児は、環境との相互作用の中で生活し、成長発達し続ける限りない可能性を持つ存在であることやひとりの人格を持ち、尊重されるべき存在であるととらえる姿勢を学ぶ。

２．目的

小児各期の特徴、小児を取り巻く環境や守られるべき権利と倫理を理解し、小児の正常な成長・発達を促すための養育と、健康を障害した様々な健康段階の小児と家族に対する看護を学ぶ。

３．目標

１） 小児看護の対象を理解し、小児看護の特徴がわかる。
２） 小児各期の特徴と小児が健康な生活を送るための養育について理解する。
３） 小児を取り巻く環境を理解し、健康問題との関連がわかる。
４） 小児の権利を尊重した看護や小児医療の課題がわかる。
５） 小児の成長・発達を支える諸制度とその活用がわかる。
６） 小児の各疾患の病態・症状・診断・治療について理解する。
７） 小児看護に必要な基本的技術を身につける。
８） 疾病や障害を持つ小児と家族への看護を実施する。

４．科目

小児看護概論	小児と家族の看護
小児の疾患	小児看護の展開方法

専門分野・小児看護学　授業計画

授業科目及び時間数	小児看護概論　1 単位　30 時間		
開講時期	2 年次　前期		
担当教員	芝口由美子	実務経験	有

＜科目のねらい＞
小児看護の対象を理解し、看護の特徴と理念を学ぶことがねらいである。
＜到達目標＞
1. 小児の成長発達を理解し、小児が健康な生活を送るために必要な援助について理解する。
2. 子どもの権利条約に基づいた関わり方や社会における法律や制度がわかる。

授業計画・内容・担当教員		
1 回目	1. 小児看護の対象 2. 小児と家族の諸統計	講義　プレテスト
2 回目	1. 小児看護の変遷 2. 小児看護の目標・役割 3. 小児看護の課題	講義
3 回目	1. 小児看護における倫理 1)子どもの権利 2)医療現場で起こりやすい問題点と看護	講義
4 回目	1. 小児で用いられる理論 1）セルフケア理論 2）自我発達理論 3）認知発達理論　他	講義
5 回目	1. 小児の成長と発達 1）発達論　2）一般的原則　3）影響する因子　4）評価	講義
6 回目	1. 小児各期の特徴と看護 1）新生児期　2）乳児期　3）幼児期　4）学童期　5）思春期	GW 計画・個人学習
7 回目	1. 小児各期の特徴と看護 1）新生児期　2）乳児期　3）幼児期　4）学童期　5）思春期	各期グループ内発表
8 回目	1. 新生児期の特徴と看護 1）形態的特徴 2）機能的特徴 3）各機能の発達 4）養育・看護	グループ内発表、補足講義 プレテスト
9 回目	1. 乳児期の特徴と看護 1）形態的特徴 2）機能的特徴 3）各機能の発達 4）養育・看護	グループ内発表、補足講義 プレテスト
10 回目	1. 幼児期の特徴と看護 1）形態的特徴 2）機能的特徴 3）各機能の発達 4）養育・看護	グループ内発表、補足講義 プレテスト
11 回目	1. 学童期の特徴と看護 1）形態的特徴 2）機能的特徴 3）各機能の発達 4）養育・看護	グループ内発表、補足講義 プレテスト
12 回目	1. 思春期の特徴と看護 1）形態的特徴 2）機能的特徴 3）各機能の発達 4）養育・看護	グループ内発表、補足講義 プレテスト
13 回目	1. 家族の特徴とアセスメント 1）子どもにとって家族とは　2）家族のアセスメント	講義
14 回目	1. 小児と家族を取り巻く社会 1）児童福祉　2）母子保健　3）医療費の支援　4）予防接種 5）学校保健　6）特別支援教育　7）臓器移植法	講義
15 回目	終了試験	

評価方法	筆記試験（60%）・プレテスト（30%）・　GW 内容（10%）
受講生に対するメッセージ	小児看護概論は、まず小児看護の対象と小児看護の概要を捉えます。そして、子どもを育てていく過程で必要な知識を学習していきます。グループワークが多いですが、みんなで楽しく学びましょう。
テキスト	系統看護学講座　専門分野　小児看護学［1］小児看護学概論 小児臨床看護総論　医学書院
参考書	

専門分野・小児看護学　授業計画

授業科目及び時間数	小児の疾患　1単位　30時間		
開講時期	2年次　前期		
担当教員	福岡哲也	実務経験	有

＜科目のねらい＞
健康障害のある小児の疾患・治療の特徴を理解することがねらいである。
＜到達目標＞
1. 小児看護の実践に必要な小児の各疾患の病態・症状・診断・治療について理解できる。

授業計画・内容・担当教員		
1回目	1. 染色体異常・先天異常 1)常染色体異常　2)性染色体異常　3)胎芽病と胎児病	講義
2回目	1. 新生児の疾患 1)分娩外傷　2)適応障害　3)感染症	講義
3回目	1. 低出生体重児の疾患 1)脳室内出血　2)呼吸窮迫症候群　3)新生児壊死性腸炎 4)未熟児貧血　5)未熟児網膜症　他	講義
4回目	1. 小児の呼吸器疾患 1)上気道の疾患　2)気管支・肺・胸腺疾患	講義
5回目	1. 小児の消化器疾患 1)横隔膜の疾患　3)胃・十二指腸の疾患 2)食道の疾患　4)小腸・大腸の疾患　他	講義
6回目	1. 小児の神経疾患 1)神経系の先天異常　2)けいれん性疾患 3)中枢神経系の血管性疾患　4)脳性麻痺　他	講義
7回目	1. 小児の運動器疾患 1)先天性股関節脱臼 2)先天性内反足 3)先天性筋性斜頸　4) 骨折	講義
8回目	1. 小児の発達	講義
9回目	1. 小児の精神疾患と発達障害 1)発達障害　2)神経症圏の疾患　他	講義
10回目	1. 小児の代謝疾患 1)新生児マススクリーニング 2)先天代謝異常症 3)代謝性疾患 2. 小児の内分泌疾患 1)下垂体疾患　2)甲状腺疾患　3)副甲状腺疾患　4)性腺の異常	講義
11回目	1. 小児の腎臓・泌尿器疾患及び生殖器疾患 1)先天性腎尿路異常　2)糸球体疾患　3)尿細管間質疾患 4)慢性腎臓病　5)急性腎臓病　6)生殖器・外性器の疾患	講義
12回目	1. 小児の感染症・ワクチン 1)ウイルス感染症　2)細菌感染症　3)真菌感染症　4)ワクチン	講義
13回目	1. 小児の免疫・アレルギー性疾患 1)アレルギー性疾患　2)原発性免疫不全症　3)リウマチ性疾患	講義
14回目	1. 小児の血液疾患と小児癌 1)貧血　2)出血性疾患　3)造血器腫瘍　4)その他の固形腫瘍	講義
15回目	1. 小児の循環器疾患 1)先天性心疾患　2)川崎病　3)後天性心疾患 4)心臓律動の異常 5)突然死	講義
16回目	終了試験	看護教員
評価方法	筆記試験100%	
受講生に対するメッセージ	小児の病気は先天異常や小児特有の病気があります。また、大人と同じ病気でも子どもの機能の未熟性から症状の現れ方が異なります。子どもは病気が良くなるのも悪くなるのも早いです。状況の判断ができる知識を身につけ、異常の早期発見ができるようになりましょう。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　小児看護学〔2〕小児臨床看護各論　医学書院	
参考書		

専門分野・小児看護学　授業計画

授業科目及び時間数	小児と家族の看護　1 単位　30 時間		
開講時期	2 年次　後期		
担当教員	芝口由美子　石原美香　杉崎好美　高橋美紀　加藤水希 望月ますみ	実務経験	有

＜科目のねらい＞
健康障害を持つ小児と家族が生活・療養するために必要な看護の知識と安全・安楽な技術を学ぶことがねらいである。
＜到達目標＞
1. 健康障害の様々な病期や環境における子どもと家族を理解し看護展開ができる基礎的能力を身につけ

授業計画・内容・担当教員		
1 回目	1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 1)病気・障害が子どもと家族に与える影響 2)子どもの健康問題と看護	講義（芝口）
2 回目	1. 急性期にある子どもと家族の看護 1)急性期の特徴と子どもと家族の看護	講義（石原）
3 回目	1. 周手術期の子どもと家族の看護 1)周手術期の特徴と子どもと家族の看護	講義（石原）
4 回目	1. 検査・処置を受ける子どもの看護 1)子どもにとっての検査・処置体験 2)様々な検査・処置を受ける子どもの看護	講義（石原）
5 回目	1. 不安・苦痛を軽減する援助 1）ディストラクション　2）プレパレーション	講義（HPS 望月）
6 回目	1. ハイリスク新生児と家族の看護 1)低出生体重児の看護 2)高ビリルビン血症の新生児の看護	講義（杉崎）
7 回目	1. 慢性期にある子どもと家族の看護 1)慢性期の特徴と子どもと家族の看護	講義（芝口）
8 回目	1. 障害のある子どもと家族の看護 1)障害のある子どもと家族の特徴と社会的支援	講義（高橋）
9 回目	1. 終末期の子どもと家族の看護 1)終末期の特徴と子どもと家族の看護	講義（加藤）
10 回目	1. 子どもの状況（環境）における看護 1)外来・入院中・在宅・災害時の子どもと家族の看護	講義（芝口）
11 回目	1. 子どもの虐待と看護 1)子どもの虐待の状況と求められるケア	講義（芝口）
12 回目	1. 小児の看護技術①　1）フィジカルアセスメント	講義・演習（芝口）
13 回目	1. 小児の看護技術②　1）与薬　2）輸液管理　3）経管栄養法	講義・演習（芝口）
14 回目	1. 小児の看護技術③　1）呼吸・循環管理　2）救急蘇生法	講義・演習（芝口）
15 回目	終了試験	（芝口）
評価方法	筆記試験 100％	
受講生に対するメッセージ	この科目は、病気や障害のある子どもと家族の看護を学びます。教科書上の知識だけでなく、臨床でのリアルな話が聞けます。3 年次の実習に直接繋がるので興味をもって学習しましょう。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論　医学書院 系統看護学講座　専門分野　小児看護学〔2〕小児臨床看護各論　医学書院 根拠と事故防止からみた小児看護技術	
参考書		

専門分野・児看護学　授業計画

授業科目及び時間数	小児看護の展開方法　1 単位　15 時間		
開講時期	2 年次　後期		
担当教員	芝口由美子	実務経験	有

＜科目のねらい＞
各発達段階における健康障害を持つ小児と家族を理解し、看護展開ができる基礎的能力を身につけることがねらいである。
＜到達目標＞
1. 小児が健康障害を持つことにより生じる問題をとらえ、小児の健康段階に応じた小児と家族への看護が考えられる。

授業計画・内容・担当教員		
1 回目	小児看護の展開方法	講義
2 回目 3 回目	乳児期の病児と家族の看護（急性胃腸炎の病児の事例展開）	グループワーク
4 回目 5 回目	幼児期の病児と家族の看護（ネフローゼ症候群の病児の事例展開）	グループワーク
6 回目 7 回目	学童期の病児と家族の看護（気管支喘息の病児の事例展開）	グループワーク
8 回目	小児看護の実施・評価	ロールプレイ
評価方法	課題学習 100％	
受講生に対するメッセージ	この科目は、DVD の事例を活用して、看護の展開をしていきます。課題学習が多いですが、3 年次の実習に繋がるので頑張りましょう。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論　医学書院 系統看護学講座　専門分野　小児看護学〔2〕小児臨床看護各論　医学書院	
参考書	発達段階からみた小児看護過程　医学書院	

母性看護学（講義 4 単位・ 実習 2 単位）（専門分野）

１．母性看護学の考え方

母性看護学は、看護の対象である人間を母性の側面からとらえた学問である。母性の本質は生命の創造と育成であり、女性とその家族は社会の中に存在・生活し、成長・発達している。

近年、女性のライフサイクルにおいて男女関係のあり方や価値観が多様となり、親子・家族関係が複雑で希薄なため、女性や子どもの福祉・健康が脅かされる危険性が増してきてい　　る。また、生殖補助医療技術の進歩はめざましく、先端医療の恩恵を受ける女性が増加する中、生命に対する価値観も多様化し、生命倫理上の問題や身体への侵襲・精神的負担など、健康面に大きく影響している。このような背景の中で、次世代が健康に生まれ、より健康に育むための母性支援が必須である。母性看護学ではリプロダクティブ・ヘルス・ライツ（性と生殖に関する健康と権利）を学ぶ。さらに、学生自らの母性性の成熟と生命を尊重する態度を養い、女性とその家族の個別性に応じたセルフケア支援の基盤を教授する。以上の観点から、女性のライフスタイルや役割の多様性・医学の進歩・少子化・生活環境の変化などの広い視野に立ち、女性の一生を通じて健康の保持・増進、生活の質の向上を支援する看護師の役割を学ぶ。

２．目的

女性の一生を通した性と生殖に関わる健康の促進に向け、看護が必要な状況や援助方法について学ぶ。

３．目標

1）母性の特性および母性を取り巻く社会の現状を理解し、母性看護の意義と役割がわかる。
2）ライフステージ各期の対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する。
3）女性のライフサイクルにおける母性の健康と発達課題を理解し、看護の必要性がわかる。
4）リプロダクティブヘルスケアの観点から、人間の生命や健康にかかわる倫理について考える。
5）マタニティサイクルにおける母子の健康問題を理解し、看護実践能力を身に付ける。
6）自己の母性（父性）を認識し、自己概念を発展させる。

４．科目

母性看護概論	いのちを育む看護Ⅰ
母性の正常と異常	いのちを育む看護Ⅱ

専門分野・母性看護学　授業計画

授業科目及び時間数	母性看護概論　1 単位　30 時間		
開講時期	2 年次　後期		
担当教員	松永則子	実務経験	有

＜科目のねらい＞
母性の特性を理解し、次世代が健康に生まれ育つことができるような母性への支援を学ぶ。
＜到達目標＞
1．母性看護の対象を広義にとらえ生涯を通じた性と生殖に関する健康をまもる活動がわかり、時代の変遷とともに質的・量的に変化している母性看護の必要性を理解する。

授業計画・内容・担当教員		
1 回目	1. 母性看護の基盤となる概念 1) 生命の誕生 2) 母性の概念・母性の発達	講義 ビデオ鑑賞 課題 1
2 回目	1. 母性看護の基盤となる概念 1) 母子関係と家族の発達・機能 2) セクシャリティとセクシャリティの概念・発達と課題	講義
3 回目	1. 母性看護の基盤となる概念 1) リプロダクティブヘルス/ライツ リプロダクティブヘルス/ライツの概念・課題 2) 母性看護のあり方と倫理 母性看護の理念 生命倫理と看護倫理	講義
4 回目	1. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1) 母性看護の変遷 2) 母子保健統計の動向 出生・死亡・人工妊娠中絶の動向	講義
5 回目	1. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1) 母性看護に関する組織と法律 2) 母性看護に関する施策 妊産婦と乳幼児・生涯を通じた女性の健康支援 次世代育成支援 母子保健の国際化と在日外国人母子への支援	講義
6 回目	1. 母性看護の対象理解 1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2) 女性のライフサイクルと家族 3) 母性の発達・成熟・継承	講義
7 回目	1. 母性看護に必要な看護技術 1) 母性看護における看護の展開方法 2) 母性看護に使われる看護技術	講義
8 回目	1. 女性のライフステージ各期における看護 1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 2) ライフステージ各期の健康問題と看護	講義

9 回目	1. 女性のライフステージ各期における健康問題や看護 1)思春期・成熟期・更年期・老年期	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ 課題 2 開始
10 回目	1. 女性のライフステージ各期における健康問題や看護 1) 思春期・成熟期・更年期・老年期	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
11.回目	1. 女性のライフステージ各期における健康問題や看護 1) 思春期・成熟期・更年期・老年期 各ライフステージ期における健康問題や看護の発表	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
12 回目	1. リプロダクティブヘルスケア 1)家族計画 家族計画とは・受胎調節法 2)性感染症と予防	講義
13 回目	1. リプロダクティブヘルスケア 1)ＨＩＶに感染した女性に対する看護 2)人工妊娠中絶と看護 3)喫煙女性の健康と看護	講義
14 回目	1. リプロダクティブヘルスケア 1)性暴力を受けた女性に対する看護 2)児童虐待と看護 児童虐待の実態・対策・予防・予防に向けて	講義 課題 3
15 回目	終了試験	
評価方法	筆記試験　70%　課題レポート　30%	
受講生に対するメッセージ	自らの性および生命（いのち）と重ねながら関心を持ち、対象を尊重する看護が実施できるようになりましょう 課題の提出期限が厳守できない場合は減点となります	
テキスト	系統看護学講座　専門　　母性看護学①　母性看護学概論　医学書院	
参考書	国民衛生の動向　2022／2023　厚生労働統計協会	

専門分野・母性看護学　授業計画

授業科目及び時間数	母性の正常と異常　1 単位　15 時間		
開講時期	2 年次　前期		
担当教員	岩﨑一憲・乙咩美里・山中浩史	実務経験	有

＜科目のねらい＞
　性と生殖に関する機能を理解し、妊産褥婦および新生児の正常経過と異常について学ぶ。
＜到達目標＞
１．妊娠・分娩・産褥・新生児の各期における病態の理解が深まり、より良い状態を目指す看護に繋げていける。

授業計画・内容・担当教員		
1 回目	1. 出生前からの性と生殖に関する健康と権利 1)遺伝相談 出生前診断 2)不妊症と不育症の治療	講義（乙咩）
2 回目	1. 妊娠 1)妊娠期の身体的特性 妊娠の定義と成立 胎児の発育と生理 2)妊婦と胎児の健康状態の診断	講義（山中）
3 回目	1. 分娩 1)分娩の要素 2)分娩の経過 3)産婦と胎児の健康状態の診断 2. 産褥経過と診断	講義（山中）
4 回目	1. 新生児 1)新生児の生理 2)新生児の健康状態の診断 3)新生児の異常 新生児仮死・分娩外傷	講義（山中）
5 回目	1. 妊娠・分娩・産褥の異常 1)ハイリスク妊娠 2)妊娠期の感染症 3)妊娠の異常 流産・早産・過期妊娠・異所性妊娠・妊娠高血圧症候群	講義（岩﨑）
6 回目	1. 妊娠・分娩・産褥の異常 1)分娩の異常 産道の異常・娩出力の異常・胎児および付属物の異常 胎児機能不全・分娩時異常出血・産科処置と手術の適応	講義（岩﨑）
7 回目	1. 妊娠・分娩・産褥の異常 1)産褥の異常 子宮復古不全・産褥感染症・産褥血栓症・精神障害	講義（岩﨑）
8 回目	終了試験	（岩﨑）
評価方法	筆記試験　100％	
受講生に対するメッセージ	対象者の経過にそって系統的に、母性看護を学んでいきましょう。	
テキスト	系統看護学講座　専門　母性看護学各論　母性看護学②　医学書院	
参考書	病気がみえる⑩産科　メディックメディア	

専門分野・母性看護学　授業計画

授業科目及び時間数	いのちを育む看護Ⅰ　　1単位　30時間		
開講時期	2年次　前期		
担当教員	松永則子	実務経験	有

＜科目のねらい＞
マタニティサイクルにおける健康支援と健康問題に対する看護を学ぶ。
＜到達目標＞
1．女性のライフステージにおける家族・地域社会と幅広い対象者の正常な経過の看護を理解し周産期の異常を持つ対象者への健康問題解決や健康の維持増進への支援がわかる。

授業計画・内容・担当教員		
1回目	1.妊娠期における看護 1)妊婦の心理・社会的特性と家族心理 2)妊婦・胎児の看護アセスメント	講義 演習 - ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
2回目	1.妊娠期における看護 1)正常な妊娠経過の看護 2)計測・触診・聴診・栄養・体重管理・喫煙・飲酒 3)妊娠中のマイナートラブル	講義
3回目	1.妊娠期における看護 1)妊娠期における看護技術（計測・触診・聴診）	演習
4回目	1.妊娠期における看護 1)親になるための準備教育 分娩準備教育・母親学級・バースプラン・出産場所 2)正常からの逸脱時の看護 悪阻・貧血・切迫早産・前置胎盤 常位胎盤早期剥離・破水・妊娠高血圧症候群	講義
5回目	1.分娩期における看護 1)産婦の心理・社会的特性と家族心理 2)産婦・胎児の経過の診断とアセスメント 3)正常な分娩経過の看護 夫・家族支援・産痛の緩和、呼吸法	ビデオ視聴 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
6回目	1.妊娠期における看護 1)分娩各期の看護の実際 2)正常な分娩から逸脱時の看護 胎児機能不全・異常分娩（吸引　鉗子　帝王切開術） 弛緩出血・頸管裂傷・膣、会陰裂傷	講義
7回目	1.産褥期における看護 1)褥婦の看護アセスメントと褥婦の健康を整える看護 産褥の経過（全身の変化・進行性変化・退行性変化） 2)褥婦の心理・社会的特性と家族心理 精神、心理的生活行動・社会的生活行動	講義
8回目	1.産褥期における看護 1)褥婦の日常生活とセルフケア 2)親役割への支援	講義
9回目	1.産褥期における看護 1)乳房のケア 乳房の解剖・乳汁分泌機序 乳房の模型づくり・乳房マッサージ	講義 演習 - ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ

10 回目	1. 産褥期における看護 1)正常産褥からの逸脱時の看護 子宮復古不全・産褥期の発熱・乳房トラブル 精神障害	講義
11 回目	1. 産褥期における看護 1)産褥期における看護技術（乳房の観察とケア・子宮底測定）	演習
12 回目	1. 新生児期における看護 1)新生児の生理 新生児とは（新生児の定義・新生児の呼び方・姿勢） 2)新生児の観察とアセスメント 呼吸、循環の適応・呼吸・体温・生理的黄疸 皮膚・反射・体重	講義
13 回目	1. 新生児期における看護 1)新生児期における計測とケア （バイタルサイン測定・身長、体重測定・更衣・おむつ 交換・排気法）	演習
14 回目	1. 新生児期における看護 1)新生児の看護 出生直後・出生後から退院まで 代謝異常検査・K2 シロップ投与 2)新生児の異常と看護 新生児仮死・分娩外傷・高ビリルビン血症 産瘤、頭血種・ビタミンK欠乏性出血症	講義
15 回目	終了試験	
評価方法	筆記試験　100％	
受講生に対するメッセージ	母性看護学は、母性特有の専門用語が多く慣れるのに大変だとは思います。一つひとつ丁寧に理解していけると意味が分かり、周産期が繋がり母性看護に対する不安が軽減します。 実技は繰り返し練習しましょう。	
テキスト	系統看護学講座　専門　母性看護学各論　母性看護学②　医学書院	
参考書	病気がみえる⑩産科　メディックメディア 根拠と事故防止からみた母性看護技術　医学書院	

専門分野・母性看護学　授業計画

授業科目及び時間数	いのちを育む看護Ⅱ　1 単位　15 時間		
開講時期	2 年次　後期		
担当教員	細谷真貴子	実務経験	有

＜科目のねらい＞
　母性看護を実践するために必要な看護の展開方法を学ぶ。
＜到達目標＞
１．母子の健康問題を判断し、対象のセルフケア能力を高める看護を考えることができる。

授業計画・内容・担当教員		
1 回目	1. 看護の展開方法	講義
2 回目	1. 周産期事例による看護の展開方法 1)妊娠期	講義・演習・グループワーク
3 回目	1. 周産期事例による看護の展開方法 1)分娩期	講義・演習・グループワーク
4 回目	1. 周産期事例による看護の展開方法 1)産褥期	講義・演習・グループワーク
5 回目	1. 周産期事例による看護の展開方法 1)産褥期	講義・演習・グループワーク
6 回目	1. 周産期事例による看護の展開方法 1)褥婦と新生児	講義・演習・グループワーク
7 回目	1. 周産期事例による看護の展開方法 1)産褥期における保健指導	講義・演習・グループワーク
8 回目	終了試験	
評価方法	筆記試験 50%　事例展開 50%	
受講生に対するメッセージ	展開の速い周産期です。 母性看護の対象者を大切にできるように学んでください。	
テキスト	系統看護学講座　専門　母性看護学各論　母性看護学②　医学書院	
参考書	**病気がみえる⑩　産科　メディックメディア** **根拠と事故防止からみた母性看護技術　医学書院**	

精神看護学（講義５単位・実習３単位）（専門分野）

１．精神看護学の考え方

精神看護とは心の健康問題を持つ人対し、個人の尊厳と権利を擁護し、自律性の回復やその人らしい生活を送れるよう支援することを基本としている。現代は様々なストレスが存在し、「こころの時代」「不安の時代」ともよばれている。このような社会の中で不安や自己の欲求との葛藤を体験しながら、心の健康を維持していくのは容易ではない。心の健康問題は社会の変化と切り離して考えられず、自殺や精神疾患が課題となっている。

心と身体は常に相互に作用しており、身体疾患に伴って心のバランスを崩す人も多い。また、人は発達上で様々なライフイベントや発達課題の獲得などの阻害により、常に危機的状況になる可能性をもっている。そのような状況を考え、心の健康問題は誰にでもおきると理解し、精神看護学の対象が自分を含めた全ての人に及んでいると理解する。また、心の健康問題を持つ人やそのケアをする人に対してのリエゾン看護チームの活動を理解したい。心の健康問題を抱えている人への援助方法を学ぶことは、全ての看護の基本である。

厚生労働省は「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」を政策理念とし様々な施策を行っている。近年は心の健康問題をもつ人は増加傾向にあり身近な疾患になっている。精神障害の有無や程度に関わらず、誰もが地域の一員として安心して自分らしい暮らしができるよう社会復帰、及びその自立と社会経済活動への参加の促進が求められる。

精神看護学では、人が人に働きかけ、そこに関わる看護師が自分自身の感情・思考を知り、そのうえで有意義な患者-看護師関係を築くコミュニケーションの方法や心の健康問題を持つ人がその人らしく生活できるような支援を学ぶ。また、日本の精神医療体制の現状を知り、各個人の精神障害に関する認識を見つめ、そこに潜む強い偏見があることを理解する。その上で心に健康問題のある人や病を持った人を一人の人として、治療や看護の介入が必要な状態として理解し、援助方法を学ぶ。

２．目的

精神看護の基盤となる理論や知識を学習することにより、精神看護の対象を理解する。

心の健康を維持するための援助及び、心の健康問題を持つ人や家族に対する援助について学ぶ。

３．目標

１）人間の心の発達や、心の働きを理解する。
２）個人と環境とのダイナミックな相互作用と、そこに生ずる健康問題がわかる。
３）心の健康問題をもつ人がわかる。
４）心の健康問題をもつ人の特徴を学び、必要な援助方法がわかる。
５）精神看護における専門的アプローチの方法を理解する。
６）地域社会における精神保健医療福祉の必要性と政策・施策を学び、心の健康問題を持つ人の社会復帰に関わる活動がわかる。

４．科目

精神看護概論	心の健康問題のある人の回復を支える技術
心の健康問題とその治療	心の健康問題のある人への看護

専門分野・精神看護学　授業計画

授業科目及び時間数	精神看護概論　1 単位　30 時間		
開講時期	2 年次前期		
担当教員	式守晴子・松永深雪・勝治乃武子	実務経験	有

＜科目のねらい＞

本科目のねらいは、人を身体・精神・社会的に統合された存在として理解し、ライフサイクルにおける心の発達をふまえ、精神看護の機能と役割を学ぶこと、心の健康問題のある人を支える法律と基本的な施策を理解することである。

＜到達目標＞

1. 人を身体・精神・社会的に統合された存在として理解し、あらゆるライフサイクルにおける心の発達をふまえ、精神看護の機能と役割を学ぶ。
2. 心に健康問題を持つ人を支える法律と基本的な施策を理解する。

授業計画・内容・担当教員

1 回目	1. 心とは、心の健康とは何か 1)心とは何か　2)心の健康と精神の健康	講義（勝治）
2 回目	1. 心の発達 1)脳の仕組みと精神機能　2）心の機能と発達 3)発達理論	講義（勝治）
3 回目	1. 適応の意義 2. 対人関係と適応 3. 災害時地域精神保健医療	講義（勝治）
4 回目	1. 精神看護の基本理念 2. 精神看護の機能と役割 1)精神看護の目的 2)精神看護の機能と役割 3)精神科チームにおける医療と看護	講義（勝治）
5 回目	1. 精神保健医療の変遷と患者処遇の変遷（欧米）① 1)精神医療の歴史的変遷と看護 2)精神障がい者の社会的存在 3)保健医療における資源	講義（勝治）
6 回目	1. 精神保健医療の変遷と患者処遇の変遷（日本）② 1)精神医療の歴史的変遷と看護 2)精神障がい者の社会的存在 3)保健医療における資源	講義（勝治）
7 回目	1. 精神保健医療の変遷と患者処遇の変遷③ 1)社会資源の活用とマネジメント 2)患者の権利擁護(アドボカシー)	講義（勝治）
8 回目	1. 精神保健福祉に関する法律と行政システムの実際① 1)精神保健福祉法	講義（勝治）
9 回目	1. 精神保健福祉に関する法律と行政システムの実際② 1)障害者総合支援法 2)自殺対策基本法 3)犯罪被害者等基本法 4)障害者の雇用の促進等に関する法律 5)生活保護法	講義（勝治）
10 回目	1. 精神保健福祉に関する法律と行政システムの実際 1)法律活用の実際	講義(勝治) ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
11 回目	1. 精神科リハビリテーションと地域の精神保健	講義(式守)
12 回目	1. 家族と家族の機能	講義(式守)
13 回目	1. 家族システム理論と家族療法	講義(式守)

14 回目	1. リエゾン精神看護 1. コンサルテーションと精神医学及び看護	講義(松永)
15 回目	終了試験	(勝治)
評価方法	筆記試験　100%(式守 20%　松永 10%　勝治 70%)	
受講生に対するメッセージ	近年、日本の精神科医療をとりまく状況は急速に変化しています。精神疾患・障害とその治療の歴史的な流れを理解し、心の健康問題のある人が社会の中でどのような存在として認識されてきたか、現代社会に生きる人々の社会生活を支えていけば良いか考える機会として欲しいです。 さらに精神保健看護の知識と精神科以外の場面での患者ケア・家族ケアを統合する、リエゾン精神看護についても理解して欲しいです。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　精神看護の基礎　精神看護学１　医学書院 系統看護学講座　専門分野　精神看護の展開　精神看護学２　医学書院	
参考書	ナーシンググラフィカ　情緒発達と精神看護の基本　メディカ出版	

専門分野・精神看護学　授業計画

授業科目及び時間数	こころの健康問題とその治療　1単位　30時間		
開講時期	2年次　前期		
担当教員	榛葉俊一・安藤恵・勝治乃武子	実務経験	有

＜科目のねらい＞

本科目のねらいは、ライフサイクルにおける特徴と危機を知り、環境への適応と不適応、心の健康問題や危機的状況の要因を理解することと、主な精神障害の病態・治療・症状について学び、心の健康を維持・増進、回復するための援助を学ぶことである。

＜到達目標＞

1. 環境への適応と不適応、心の健康問題や危機的状況の要因を理解し、心の健康を維持・増進・回復するための援助を学ぶ。
2. 主な精神障害の病態・治療・検査について学ぶ。

授業計画・内容・担当教員		
1回目	1. 適応の意義 2. 環境への不適応と危機的状況 ライフサイクルにおける特徴と危機①	講義(勝治)
2回目	1. 適応の意義 2. 環境への不適応と危機的状況 ライフサイクルにおける特徴と危機②	講義（勝治）
3回目	1. 適応の意義 2. 環境への不適応と危機的状況 ライフサイクルにおける特徴と危機③	講義（勝治）
4回目	1. 心理臨床検査	講義(安藤)
5回目	1. 精神療法	講義(安藤)
6回目	1. カウンセリングの基礎と実際	講義(安藤)
7回目	1. 治療的コミュニケーション 1)認知行動療法　他	講義(安藤)
8回目	1. 主な疾患と治療 1)統合失調症	講義(榛葉)
9回目	1. 主な疾患と治療 1)気分(感情)障害	講義(榛葉)
10回目	1. 主な疾患と治療 1)神経症及びストレス関連障害(摂食障害)	講義(榛葉)
11回目	1. 主な疾患と治療 1)成人の人格及び行動の障害(人格障害)	講義(榛葉)
12回目	1. 主な疾患と治療 1)精神作用物質による障害(アルコール性障害　他)	講義(榛葉)
13回目	1. 主な疾患と治療 1)器質性精神障害	講義(榛葉)
14回目	1. 主な疾患と治療 1)主な薬物療法 2. リハビリテーション療法	講義(榛葉)
15回目	終了試験	（勝治）
評価方法	筆記試験　100%(榛葉50%　安藤30%　勝治20%)	
受講生に対するメッセージ	本科目は、対象理解に必要不可欠な疾患・治療・検査を学びます。精神疾患は地域医療の主要課題である「五大疾病」のひとつで、患者数は年々増加しており身近な慢性疾患の一つといえます。精神疾患を学ぶこと、ライフサイクルにおける危機を学ぶことで、対象理解を深めるとともに、自らのメンタルヘルス対策にもつなげて欲しいです。さらに近年頻発している災害時における地域精神保健医療を学び、災害時の心のケアの必要性について考えて欲しいです。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　精神看護の基礎　精神看護学１　医学書院 系統看護学講座　専門分野　精神看護の展開　精神看護学２　医学書院	
参考書	学生のための精神医学　第３版　医歯薬出版 ナーシンググラフィカ　情緒発達と精神看護の基本　メディカ出版	

専門分野・精神看護学　授業計画

授業科目及び時間数	心に健康問題のある人の回復を支える技術　1単位　15時間		
開講時期	2年次　後期		
担当教員	式守晴子・勝治乃武子	実務経験	有

＜科目のねらい＞

本科目のねらいは、看護師の専門的で意図的な対人関係としての患者 - 看護者関係を理解し、振り返りの技術を身につけられることである。さらに生きる力と強さに着目した援助、地域における精神看護の学習を通して患者の回復を促進する援助を学ぶことである。

＜到達目標＞

1. 対人関係の理論(ペプロウ・オーランド・ウィーデンバック)の理解ができる。
2. 専門的コミュニケーションを理解し、振り返りの技術を身につける。
3. 地域における精神看護の必要性・援助の理解ができる。

授業計画・内容・担当教員		
1回目	1. 対人関係の理論 1) ペプロウ 2) オーランド 3) ウィーデンバック 2. 対人関係の振り返りの技術 1) 再構成の記入方法の理解	講義(勝治)
2回目	1. コミュニケーションの基本	講義(勝治) グループワーク
3回目	1. 治療的コミュニケーション	講義（勝治) グループワーク
4回目	1. 援助関係の構築 1)援助関係の基礎 2)患者 - 看護師関係	講義(勝治)
5回目	1. 生きる力と強さに着目した援助 1)ストレングス 2)リカバリ(回復) (1)ＳＳＴ (2)認知行動療法	講義(式守)
6回目	1. 地域における精神看護 1)心理教育 2)地域生活に向けての援助(服薬の指導) 3)地域で生活するための原則 4)地域生活を支える看護の実際	講義(式守)
7回目	1. 対人関係の振り返りの技術(再構成)	講義(勝治) 演習
8回目	終了試験	（勝治）
評価方法	筆記試験　95%(式守20%　勝治75%)　課題提出(再構成)5%	
受講生に対するメッセージ	基礎看護学で学んだコミュニケーションを想起しながら、さらに看護者にとって必要な治療的コミュニケーションを身につけられるよう授業に取り組んで下さい。 再構成を通して､改めて自己のコミュニケーションの特性を振り返る機会として欲しいです。 また、ここでは「ストレングス」「リカバリ」についても学びます。これは当事者のもつポジティブな可能性に注目する看護のありかたです。精神疾患をもつ人々の問題だけではなく、ポジティブな面にも目を向けられるようにしていって下さい。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　精神看護の基礎　精神看護学１　医学書院 系統看護学講座　専門分野　精神看護の展開　精神看護学２　医学書院	
参考書	系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学２　医学書院 感性を磨く技法Ⅰ　看護場面の再構成　日本看護協会出版会	

専門分野・精神看護学　授業計画

授業科目及び時間数	心に健康問題のある人への看護　2 単位　30 時間		
開講時期	3 年次　前期		
担当教員	松永深雪・勝治乃武子	実務経験	有

＜科目のねらい＞

本科目のねらいは、心の健康問題のある人の様々な症状を理解し、それによって対象の生活が阻害されいることに気づくこと、対象のセルフケア能力を活かした看護のかかわり、援助の方法を学ぶことである。

＜到達目標＞

1. 心の健康問題を持つ人の様々な症状を理解し、それによって対象の生活が阻害されていることに気づく。
2. 対象のセルフケア能力を活かした看護の関わり、援助の方法を学ぶ。

授業計画・内容・担当教員

1 回目	1. 精神看護の基本理念	講義(松永)
2 回目	1. 精神障害を持つ対象への看護の特徴	講義(松永)
3 回目	1. 主な症状と治療過程に対する看護	講義(松永)
4 回目	1. 患者・家族の理解と看護	講義(松永)
5 回目	1. 日常生活行動のセルフケアレベル	講義(松永)
6 回目	1. 日常生活行動への援助方法 1)セルフケアへの援助 2)安全管理(セーフティマネジメント) 2. リスクマネジメント	講義(松永)
7 回目	1. 看護の展開方法 1)オレム - アンダーウッド - 長谷川式の理解 2)患者と家族の基本情報(1-1　1-2 号紙)	講義(勝治)
8 回目	1. 看護の展開方法 1)患者と家族の基本情報の振り返り	講義(勝治) 個人学習
9 回目	1. 看護の展開方法 1) 発達段階の特徴(2-1 号紙) (1)発達段階の特徴 (2)生育歴からみた患者の特性	講義(勝治) 個人学習
10 回目	1. 看護の展開方法 1)疾患の特性(2-2 号紙)	講義(勝治) 個人学習
11 回目	1. 看護の展開方法 1)セルフケアレベル(3-1 号紙)	講義(勝治) 個人学習
12 回目	1. 看護の展開方法 1)セルフケアレベル(3-2 号紙)	講義(勝治) 個人学習
13 回目	1. 看護の展開方法 1)患者のイメージ像(4-1 号紙) 2)患者の全体像(4-2 号紙)	講義(勝治) 個人学習
14 回目	1. 看護の展開方法 1)患者のイメージ像・全体像の振り返り	講義(勝治) ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
15 回目	終了試験　まとめ	講義(松永)
評価方法	筆記試験　50%(松永 50%)　事例展開　50%	
受講生に対するメッセージ	本科目では、心の健康問題を持つ人への看護の実際を学び、事例に沿って紙面上で看護を展開します。精神看護学実習で活用できるよう、積極的に授業に取り組んで下さい。	
テキスト	精神看護学　第２版　学生 - 患者のストーリーで綴る実習展開　医歯薬出版 系統看護学講座　専門分野　精神看護の基礎　精神看護学１　医学書院 系統看護学講座　専門分野　精神看護の展開　精神看護学２　医学書院	
参考書	ナーシンググラフィカ　情緒発達と精神看護の基本　メディカ出版 学生のための精神医学　第３版　医歯薬出版	

基礎看護学（講義 11 単位・実習 3 単位）（専門分野）

１．基礎看護学の考え方

基礎看護学は看護を学ぶものにとって最初に学習する専門科目となる。看護における主要な概念である、人間、環境、健康、看護を学ぶことからはじめ、科学的根拠に基づいた安全、安楽な技術を提供できるよう段階をおって学ぶ。

少子・超高齢社会への移行が急速に進む中、看護に求められるニーズも変化し、看護の対象の多様性、複雑性に対応する力が求められている。看護師として倫理的に判断し、行動できるよう、コミュニケーション、フィジカルアセスメントを強化し適切な看護を展開できる方法を身につけ、専門領域での学びにつなげられる内容構成となっている。基礎看護学は、看護を学ぶ上で重要な基盤となる。

２．目的

看護の対象及び健康、看護の機能・役割について理解し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。

３．目標

1）看護学の基本的な概念である「人間・環境・健康・看護」がわかる。
2）看護の機能と役割がわかる。
3）日常生活援助技術を身につける。
4）診療の補助技術を身につける。
5）科学的根拠に基づく看護展開方法がわかる。
6）健康状態に応じた看護実践の基礎を学ぶ。
7）看護を探求する姿勢を身につける。

４．科目

看護概論	食事・排泄を支える看護	診療に伴う看護Ⅰ （感染・創傷管理・検査処置）
看護研究の基礎	フィジカルアセスメント	診療に伴う看護Ⅱ （生体機能管理・呼吸、循環）
生活環境を整える看護	看護の展開方法	診療に伴う看護Ⅲ （薬物療法）
清潔を支える看護	症状に応じた看護	

専門分野・基礎看護学　授業計画

授業科目及び時間数	看護概論　1 単位　30 時間		
開講時期	1 年次　前期		
担当教員	松永則子	実務経験	有

＜科目のねらい＞
　社会の変化に伴い医療現場も変わり、看護職に対する期待、働く場も多様化している。しかし、看護の場が多様化しても、看護師は「生」「死」「病」「生」に向き合う職業であり、その人の健康問題をその人と共に解決していこうとする職業に変わりはない。
　看護学概論は、各看護学の基盤となる科目である「人間」「環境」「健康」「看護」の概念をキーワードに、看護の対象である人間を理解し看護とは何か、看護師とは何をする人かを学ぶ。
＜到達目標＞
　看護の概念を捉え、保健医療福祉の中での看護の役割と責務、専門性について学ぶ。

授業計画・内容・担当教員		
1 回目	1. 看護学を学ぶにあたり 2. 看護職の資格と規定	講義
2 回目	1. 看護の変遷　2.職業としての看護の確立	講義
3 回目	1. 看護と何かを考える 1) 看護の専門性、独自性　2) 患者中心の看護 3)実践の科学としての看護　4)看護の定義、概念	講義　演習
4 回目	1.フローレンス゠ナイチンゲール看護論	講義　演習
5 回目	1.フローレンス゠ナイチンゲール看護論	演習
6 回目	1.ヴァージニア゠ヘンダーソン看護論	講義
7 回目	1. ジョイス゠トラベルビー　2. ドロセア゠E゠オレム 3. シスター゠カリタス゠ロイ　4. パトリシア゠ベナー 5. アイモジン゠M゠キング　看護論	講義
8 回目	1. 看護の対象である人間理解 1)こころとからだ　2)成長・発達　3)人の生活	講義
9 回目	1. 生活者としての健康の捉え方	講義　演習
10 回目	1. 生活者としての健康の捉え方	演習
11 回目	1. 生活者としての健康の捉え方	講義　演習
12 回目	1. 看護の機能と役割 2. 看護の活動領域　1)国際化と看護　2)災害における看護	講義
13 回目	1. 看護における倫理	講義
14 回目	1. 人が人として生きることを考える	講義　VTR
15 回目	終了試験	
評価方法	授業・演習取り組み姿勢、レポート、筆記試験から総合的に評価する	
受講生に対するメッセージ	看護学校に入学し初めて学ぶ専門分野の科目です。看護の本質や看護理論など、目に見えない抽象的な内容も多く、難しく感じるかもしれません。丸暗記だけでは、わかりづらい内容が多いため、好奇心を持ちながら講義・演習に参加してください。 　自己の看護観を築くための基礎科目になります。「私の考える看護は・・」問い続けて下さい。 　授業期間中に課題レポートがあります。指示された期間内に計画的に取り取り組んで下さい。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学①　看護学概論　医学書院	
参考書	ナイチンゲール＝看護覚え書（現代書）　看護の基本となるもの（日本看護協会出版会） 看護職の倫理綱領（照林社）	

専門分野・基礎看護学　授業計画

授業科目及び時間数	看護研究の基礎　1 単位　15 時間		
開講時期	2 年次　後期		
担当教員	吉田聖乃	実務経験	有

＜科目のねらい＞
　看護職は社会・人々からより質の高い看護を提供することが求められ、看護者自身もより高い看護をしたいと思いながら日々の看護を行っている。このような人々のニーズと看護師自身がより高い看護をしたいと考えた時には、看護についての疑問や問題が見いだされる。それらを解決するための科学的思考と姿勢に基づいた看護を実践する研究力を養う。
＜到達目標＞
　1. 看護における研究の意義と方法がわかる
　2. 研究のプロセスとその進め方がわかる
　3. 研究の一連の過程を学ぶことにより、科学的思考と姿勢をもつことができる

授業計画・内容・担当教員

1 回目	1．看護研究の目的と意義 2．看護研究の全体の流れ 3．研究疑問	講義 演習（疑問をリサーチクエッションへ）
2 回目	1．文献の探し方 2．文献の検討の仕方	講義 演習（文献検索、文献カード）
3 回目	1．文献レビュー 2．研究目的の決定	講義 演習（リサーチクエッションの構造化）
4 回目	1．研究デザインの種類と選択 2．データの収集・分析	講義 演習（研究デザインの選択）
5 回目	1．研究における倫理的配慮 2．研究計画書の作成	講義 演習（研究計画書の作成）
6 回目	1．論文の書き方 2．研究成果の公表	講義 演習（文献クリティーク）
7 回目	学会の参加 　静岡済生会総合病院院内学会の参加	見学 課題（クリティーク）
8 回目	試験、まとめ	

評価方法	授業・演習取り組み姿勢、レポート、筆記試験から総合的に評価する
受講生に対するメッセージ	演習の実施なしでは研究の理解に繋がらないため、積極的に演習に取り組んで下さい。
テキスト	系統看護学講座　別巻　看護研究　医学書院
参考書	

専門分野・基礎看護学　授業計画

授業科目及び時間数	生活環境を整える看護　1単位　30時間 (環境を整える看護・活動、休息を支える看護)		
開講時期	1年次　前期		
担当教員	山田美季・細谷真貴子	実務経験	有

＜科目のねらい＞
　基礎看護学では「看護の対象及び健康、看護の機能・役割について理解し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ」ことを目的とし、生活環境を整える看護では看護の対象者が日常生活に援助が必要となった場合の援助技術の基礎を学ぶことをねらいとしている。いずれの看護技術においては、標準予防策が必須である。この科目では標準予防策を学ぶことからはじまる。その後、環境・活動・休息に伴う援助について考える。先ず環境について、入院生活は集団生活であり、治療の場でもあるため、個々の患者にとって少しでも生活しやすく、快適な場であるように環境を整えることが重要である。次に活動について、看護による活動の援助は、ただ単に人の動きを助けるだけでなく生活を整えるための援助であるといえる。更に休息については、疲労の回復方法としての休息の種類のなかで特に安静と睡眠は重要である。
＜到達目標＞
1. 対象の健康・生活を支える環境・活動・休息のニードを充足するための援助技術の基礎を学ぶ。

授業計画・内容・担当教員		
1回目	1. 環境調整の意義・視点・アセスメント	講義（山田）
2回目	1. 感染防止の技術・標準予防策とは	講義・演習（山田）
3回目	1. ベッドメーキング①（ベッド周囲の環境について）	講義・ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ（山田）
4回目	1. ベッドメーキング②（ベッドメーキングの実際）	演習（山田）
5回目	1. リネン交換（患者が寝たままで行うリネン交換）	講義・ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ（山田）
6回目	1. リネン交換の実際	演習（山田）
7回目	1. 技術試験（リネン交換）	技術試験（山田）
8回目	1. 日常生活における活動の意義 2. 活動のアセスメントと援助の実際 3. ボディメカニクス	講義・ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ（細谷）
9回目	1. 移動・移乗・移送の援助	講義・ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ（細谷）
10回目	1. 移動・移乗・移送の援助 1）ストレッチャーの基本操作 2）歩行介助の方法	講義・ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ（細谷）
11回目	1.移動・移乗・移送の援助 1）車椅子の移乗と移送の実際	演習（細谷）
12回目	1. 安静がもたらす影響	講義（細谷）
13回目	1. 技術試験（体位変換・移乗・移送）	技術試験（細谷）
14回目	1. 睡眠と休息　援助の実際	講義（細谷）
15回目	1. 終了試験	筆記試験（細谷）
評価方法	筆記試験　60%・技術試験　40%	
受講生に対するメッセージ	講義が中心ですが、演習も含みます。技術試験については合格点に到達するまで繰り返し実施します。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院	
参考書		

専門分野・基礎看護学　授業計画

授業科目及び時間数	清潔を支える看護　1単位　30時間		
開講時期	1年次前期		
担当教員	芝口由美子	実務経験	有

＜科目のねらい＞

基礎看護学では「看護の対象および健康、看護の機能・役割について理解し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ」ことを目的とし、清潔を支える看護では看護の対象者が日常生活において援助が必要となった場合の援助技術の基礎を学ぶものとしている。

この科目では、清潔援助について考える。身体を清潔にすることは皮膚機能を正常に保つと同時に生活習慣としても重要なことである。何らかの障害があり自分では健康なときのように清潔を保つことができない場合は、看護者による援助が必要となる。看護における身体清潔の目的は、皮膚・粘膜、それらと関係のある器官の機能を正常に保つことである。更に温熱刺激、圧刺激などにより新陳代謝を高めることで血液循環を良くし、爽快感を与え、疾患や障害のある対象者の入院や治療に伴う身体的・精神的、疾患の予後への不安、これからの生活への不安などの様々なストレスを軽減させることができる。ここでは、対象の健康・生活を支える清潔のニードを充足させるための援助技術の基礎を学び、演習・実習で実践する頻度の高い援助技術を経験することで、更に、学びを深めるものとしたい。

＜到達目標＞

1. 清潔の意義がわかる。
2. 皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔援助の効果と全身への影響を理解する。
3. 清潔援助の方法選択の視点を理解し、それぞれの清潔援助の基礎知識と実際を学ぶ。
4. 病床での衣生活の基礎知識を理解し、援助の実際と寝衣交換の手順を学ぶ。

授業計画・内容・担当教員

1回目	1. 清潔の意義　2. 清潔保持の必要性と援助 3. お湯についての検証実験	講義ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ　発表
2回目	1. 寝衣について　2. 寝衣交換	講義　ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ見学
3回目	1. 寝衣交換	演習
4回目	1. 入浴・シャワー浴：入浴の意義・入浴方法と援助 2. 整容：整容の必要性・目的・方法	講義
5回目	1. 全身清拭：清拭の目的とその方法	講義　ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ見学
6回目	1. 陰部洗浄：陰部洗浄の目的とその方法	講義　ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ見学
7回目	1. 清潔援助の実際　　1)全身清拭 2)寝衣交換	演習
8回目	1. 清潔援助の実際　　1)全身清拭 2)寝衣交換	演習
9回目	1. 洗髪：洗髪の目的とその方法（洗髪車・洗髪台・ケリーパット）	講義　ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ見学
10回目	1. 手浴：手浴の目的とその方法 2. 足浴：足浴の目的とその方法 3. 口腔ケア：口腔ケアの目的とその方法	講義　ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ見学
11回目	1. 清潔援助の実際 1)洗髪　2)部分浴(足浴・手浴・陰部洗浄) 3) 口腔ケア	演習
12回目	1. 清潔援助の実際 1)洗髪　2)部分浴(足浴・手浴・陰部洗浄) 3) 口腔ケア	演習
13回目	1. 清潔援助の実際 1)洗髪　2)部分浴(足浴・手浴・陰部洗浄) 3) 口腔ケア	演習
14回目	1. 技術試験	技術試験
15回目	終了試験	筆記試験
評価方法	筆記試験（60%）　技術試験（40%）	
受講生に対するメッセージ	授業は講義、グループワーク・発表、演習が中心となります。学習内容に応じて講義前後に課題学習があり、授業時間内の演習も積極的に臨み援助技術の修得に努めてほしい。技術試験については合格点に到達するまで繰り返し実施します。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院	
参考書		

授業科目及び時間数	食事・排泄を支える看護　1単位　30時間		
開講時期	1年次　前期		
担当教員	白鳥智美	実務経験	有

＜科目のねらい＞

食事は日常生活そのものである。食事は、食欲を感じ、食物を口に入れ噛み砕いて飲み込む。外部環境から取り入れた食物や水を、内部環境を整えることに使った後に外部環境へ戻す行為が排泄である。食事について看護師は、食事介助が必要となった対象者に、その人の通常の生活に近い状態で食事ができるように援助する役割をもつ。排泄は、対象者の自立に向けてその人が持てる力を最大限に発揮できるような援助を考えなければならない。皆さんが、対象の健康・生活を支える基本的ニードを充足させるための食事と排泄の援助技術の基礎を身につけられるような学びをねらいとしている。

＜到達目標＞

1. 看護の対象者が健康的かつ安全で快適な食行動がとれるよう、食事援助の基礎知識を身につけ、適切にアセスメントを行い、基本的ニードを充足させるために援助技術を行うことができる
2. 看護の対象者が自立に向けてその人が持てる力を最大限に発揮できるよう排泄援助の基礎知識を身につけ、適切にアセスメントを行い、基本的ニードを充足させるために援助技術を行うことができる

授業計画・内容・担当教員		
1回目	1.食事の意義 2.食行動のメカニズム	講義
2回目	1.消化と吸収のメカニズム 2.食事介助の具体的方法	講義
3回目	1.栄養状態、摂食嚥下訓練について	講義
4回目	1.非経口的栄養摂取の援助方法 1)経管栄養法 2)中心静脈栄養法	講義
5回目	1.安全な食事援助の実際	演習
6回目	1.食事について　学習のまとめ 2.排泄援助について考える	講義
7回目	1.排泄の意義 2.排泄のメカニズム	講義
8回目	1.排泄に影響を及ぼす因子 2.排泄機能・排泄行動のアセスメント 3.排尿・排便障害について	講義
9回目	1.排泄援助の基本的技術 2.トイレ又は床上排泄援助	講義
10回目	1.尿器・便器をあててみよう	演習
11回目	1.導尿について	講義
12回目	1.浣腸・摘便について	講義
13回目	1.浣腸の方法 2.持続的導尿	演習
14回目	1. 排泄について　学習のまとめ	講義
15回目	終了試験	筆記試験
評価方法	筆記試験　100%	
受講生に対するメッセージ	授業は講義形式ですが、食事介助や排泄など演習があります。対象の健康・生活を支える基本的ニードを充足するための知識・技術を身につけ、臨地実習に備えてもらいたい。そのため、積極的に臨み知識・技術の修得に努めてほしい。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院	
参考書		

専門分野・基礎看護学　授業計画

授業科目及び時間数	フィジカルアセスメント　1単位　30時間		
開講時期	1年次　前期		
担当教員	萱場健雄	実務経験	有

＜科目のねらい＞
　この科目では、フィジカルアセスメント意義と方法、また身体機能を正しく観察・判断するための技術を身につけることをねらいとする。医療の現場は多様化・高度化し、看護師が行うフィジカルアセスメントが重要な役割を担う。患者を正しく診ることに向けて正しい知識と技術、判断力を身につけ、対象の状態を包括的に把握・アセスメントし、看護実践に活用できる能力を養う。
＜到達目標＞
１．身体の健康上の問題を明らかにするために、全身の状態を系統別にアセスメントできる。

授業計画・内容・担当教員		
1回目	1.フィジカルアセスメント総論 1)問診・視診・触診・打診・聴診	講義
2回目	1.身体計測 1)身長・体重・胸囲・腹囲 2.バイタルサインとは	講義・演習
3回目	1.バイタルサイン 1)体温・脈拍・血圧・呼吸	講義・演習
4回目	1.バイタルサイン測定	演習
5回目	1.呼吸器系のフィジカルアセスメント	講義・演習
6回目	1.呼吸器系の観察	演習
7回目	1.循環器系のフィジカルアセスメント	講義・演習
8回目	1.循環器系の観察	演習
9回目	1.バイタルサインの技術チェック	演習
10回目	1.腹部のフィジカルアセスメント	講義・演習
11回目	1.脳・神経系のフィジカルアセスメント	講義・演習
12回目	1.筋・骨格系のフィジカルアセスメント	講義・演習
13回目	1.頭頸部・乳房と腋窩・直腸・肛門のフィジカルアセスメント	講義・演習
14回目	1.事例をアセスメントする	演習・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
15回目	終了試験	

評価方法	事前課題　20%・筆記試験　80%
受講生に対するメッセージ	本科目は基礎看護学及び臨地実習の基礎となる科目である。既習の形態機能学、病態治療論などの知識と併せて理解を深めてほしい。また講義内容は広範囲であり、予習・復習を欠かさず行うことが必要である。技術習得に向けては繰り返しの練習が求められる。
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院 看護がみえるvol.3　フィジカルアセスメント　メディックメディア
参考書	はじめてのフィジカルアセスメント第2版　メヂカルフレンド社

専門分野・基礎看護学　授業計画

授業科目及び時間数	看護の展開方法　1単位　30時間		
開講時期	1年次　前期		
担当教員	黒川みゆき	実務経験	有

＜科目のねらい＞

看護は、対象となる人のニーズに応じたものである。対象にとって必要な援助を見きわめ、提供するための手段・方法論の1つである「看護過程」を学ぶ。看護過程を構成する要素とそのプロセス、看護過程を用いることの意義を理解する。これまでに学んだ、クリティカルシンキング、倫理的判断、リフレクションについての学びを基盤に、事例をもとに科学的根拠に基づいた看護を実践するための問題解決思考を身につける。また、看護記録の目的と意義を理解し、看護における観察・記録・報告の必要性を学ぶ。

＜到達目標＞

1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解する。
2. 事例をもとに、問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクション、倫理的判断といった看護過程の基盤となる考え方について学ぶ。
3. アセスメント、看護問題の明確化、計画立案、実施、評価、といった看護過程の各段階について、その基本的な考え方と実際を学ぶ。
4. 看護記録の目的と留意点、その構成について学ぶ。

授業計画・内容・担当教員

1回目	1.看護過程とは 1)看護過程の基盤となる考え方　2)クリティカルシンキング 3)リフレクション　4)ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程	講義
2回目	1.アセスメント 1)情報の意味を考える (1)相手への関心と知識(2)原因を探究する力 (3)基準値との比較と知識の活用(4)中範囲理論の活用	講義
3回目	1.全体像の把握　1)関連図 2.看護診断	講義
4回目	1.事例展開	講義
5回目	1.事例展開	演習
6回目	1.事例展開	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
7回目	1.事例展開	演習
8回目	1.看護計画 1)期待される成果　2)患者の個別性　3)看護目標記述の原則 4)看護目標の種類	講義
9回目	1.看護過程の実施　2.看護過程の評価　3.看護記録　4.SOAP	講義
10回目	1.計画に基づく援助	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
11回目	1.援助の実施　2.SOAP　3.評価	演習
12回目	1.看護診断　1)NANDA－Ⅰ	講義
13回目	1.発表会	発表会
14回目	1.まとめ	講義
15回目	終了試験	筆記試験

評価方法	筆記試験　50%　　課題提出　50%（事例展開）
受講生に対するメッセージ	「看護概論」の復習をしておいてください。事例展開するためには、「解剖生理学」「病態治療論」「フィジカルアセスメント」の知識がベースに必要です。何度も復習・予習をして臨みましょう。
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学②　基礎看護学技術Ⅰ　医学書院 ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程　日総研

専門分野・基礎看護学　授業計画

授業科目及び時間数	症状に応じた看護　1単位　30時間			
開講時期	1年次後期			
担当教員	白鳥智美		実務経験	有

＜科目のねらい＞

すべての症状は、心身に苦痛をもたらすばかりではなく、その人の食事、排泄、清潔、更衣、活動、休息など日常生活を崩す。また、緊張、不安、恐怖、無力感、自尊感情の低下など心理的問題を生じさせる危険性もある。さらに、身体的・心理的問題は、過剰な依存や孤独などの対人間関係的問題、家族や職場など社会的問題も引き起こす可能性がある。

看護師は、様々な症状とその原因・誘因に関する情報を収集し、その原因・誘因がどのようなメカニズムでその症状を発生・悪化させているのか、さらに、その症状がその人の日常・社会生活にどのような影響を及ぼしているのか、その症状が持続することで二次的問題を生じさせる危険性があるのかなど分析する能力が必要である。それらのアセスメント・診断結果を基に、予防・軽減・解決できるよう個別的な援助を計画・実施・評価・修正できる能力が必要とされる。そこで、症状に応じた看護を行うにはどうすべきかグループワークを通し、学びを深めることをねらいとしている。

＜到達目標＞

1. 患者に生じている症状の発生機序を述べることができる
2. 患者に生じている症状が日常生活に与える影響を根拠とともに述べることができる
3. 症状に応じた必要な援助方法を根拠とともに説明できる

授業計画・内容・担当教員

1回目	1. 症状に応じた看護とは 2. 頭痛のある患者の病態生理と看護 1）症状の発生機序　2）観察ポイントとアセスメントの根拠　3）基本的看護援助	講義
2回目	1. 頭痛のある患者の看護	グループワーク　講義
3回目	1. 発熱・易感染のある患者の病態生理と看護 1）症状の発生機序　2）観察ポイントとアセスメントの根拠　3）基本的看護援助	講義
4回目	1. 発熱、易感染のある患者の看護	グループワーク　講義
5回目	1. 咳、喀痰のある患者の病態生理と看護 1）症状の発生機序　2）観察ポイントとアセスメントの根拠　3）基本的看護援助	講義
6回目	1. 咳、喀痰のある患者の看護	グループワーク　講義
7回目	1. 呼吸困難のある患者の病態生理と看護 1）症状の発生機序　2）観察ポイントとアセスメントの根拠　3）基本的看護援助	講義
8回目	1. 呼吸困難のある患者の看護	グループワーク　講義
9回目	1. 腹痛、便秘 のある患者の病態生理と看護 1）症状の発生機序　2）観察ポイントとアセスメントの根拠　3）基本的看護援助	講義
10回目	1. 腹痛、便秘のある患者の看護	グループワーク　講義
11回目	1 下痢、脱水のある患者の病態生理と看護 1）症状の発生機序　2）観察ポイントとアセスメントの根拠　3）基本的看護援助	講義
12回目	1. 下痢、脱水のある患者の看護	グループワーク　講義
13回目	1. 全身倦怠感のある患者の病態生理と看護 1）症状の発生機序　2）観察ポイントとアセスメントの根拠　3）基本的看護援助	講義
14回目	1.　全身倦怠感のある患者の看護	グループワーク　講義
15回目	1. 終了試験	筆記試験

評価方法	筆記試験：80%　　提出物、授業態度：20%
受講生に対するメッセージ	講義後、事例展開をグループで行ったのち演習を行います。今まで学んだ知識や技術を活用し、個別性のある看護支援ができるように実践力をみにつけていきましょう
テキスト	系統看護学講座　基礎看護学[4]　臨床看護総論　医学書院 看護過程に沿った対症看護　―病態生理と看護のポイント―　第5版　学研
参考書	今まで使用した教科書

専門分野・基礎看護学　授業計画

授業科目及び時間数	診療に伴う看護Ⅰ　1単位　30時間（感染・創傷管理・検査処置）		
開講時期	1年次　後期		
担当教員	吉田聖乃	実務経験	有

＜科目のねらい＞

本科目は、治療、検査、処置などの内部環境を調整する技術の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために実施される診療の補助技術に必要な基本的知識と援助技術の方法を習得することがねらいである。

＜到達目標＞

1.感染成立の条件、院内感染防止の基本を知り、看護師が感染防止のために実践する重要性を理解する。

2.創傷とその治癒のメカニズムを知り、治癒のために必要な環境を理解する。

3.検査について理解し、それぞれの検査時の看護を理解する。

授業計画・内容・担当教員

1回目	1.　感染防止の技術 1）感染防止の基礎知識 2）標準予防策（スタンダードプリコーション） 3）感染経路別予防策	講義・演習
2回目	1. 感染防止の技術　標準予防策（手洗い・手指衛生）	演習
3回目	1. 感染防止の技術　標準予防策（手袋・エプロン）	演習
4回目	1.　感染防止の技術 1）消毒・滅菌　　2）無菌操作 3）感染性廃棄物の取り扱い	講義
5回目	1. 感染防止の技術　標準予防策（清潔手袋・無菌操作について）	演習
6回目	1. 創傷管理技術 1）創傷管理の基礎知識　2）創傷処置	講義
7回目	1.　無菌操作　2..創傷処置	演習
8回目	1. 無菌操作による創傷処置の実施	演習
9回目	1.　検査・処置の介助技術 1）生体検査	講義
10回目	1. 検査・処置の介助技術 1）生体検査	演習
11回目	1. 検査・処置の介助技術 1）穿刺の介助	演習
12回目	1.　検査・処置の介助技術 1）検査を受ける患者の看護	講義
13回目	1.　静脈血採血とは	講義
14回目	1. 安全な静脈血採血の実施	演習
15回目	終了試験	筆記試験

評価方法	筆記試験　100％
受講生に対するメッセージ	講義が中心ですが、演習も含みます。演習はモデルを用いて行いますが、実際の患者に行うつもりで真剣に取り組みましょう。
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院
参考書	

専門分野・基礎看護学　授業計画

授業科目及び時間数	診療に伴う看護Ⅱ　1単位　30時間（生体機能管理・呼吸・循環）		
開講時期	1年次　後期		
担当教員	山田美季	実務経験	有

＜科目のねらい＞
　本科目は、治療、検査、処置などの内部環境を調整する技術の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために実施される診療の補助技術に必要な基本的知識と援助技術の方法を習得することがねらいである。
＜到達目標＞
1. 生体情報のモニタリングの意義と看護の役割を理解する。
2. 吸入・吸引の目的と方法を理解し、その援助の実際を理解する。
4. 抹消循環促進ケアの目的と方法を理解し、その援助がわかる。

授業計画・内容・担当教員		
1回目	1. 症状・生体機能管理技術の基礎知識	講義
2回目	1. 検体検査 1）血液検査（静脈血採血・動脈血採血・血糖測定）	講義
3回目	1. 検体検査 1）尿検査・便検査・喀痰検査	講義
4回目	1. 生体情報のモニタリング 1）心電図モニター	講義
5回目	1. 生体検査を受ける患者の看護	講義
6回目	1. 生体情報のモニタリング 1）パルスオキシメーター 2）血管留置カテーテルモニター	講義
7回目	1. 酸素吸入療法の基礎知識	講義
8回目	1. 酸素吸入療法の実際	演習
9回目	1. 排痰ケアの基礎知識 1）排痰ケア 2）吸引	講義
10回目	1. 呼吸・循環を整える援助の実際 1）一時的吸引（口腔）	演習
11回目	1. 呼吸・循環を整える援助の実際 1）一時的吸引（鼻腔）	演習
12回目	1. 人工呼吸療法 2. 吸入	講義
13回目	1. 体温管理の技術	講義
14回目	1. 末梢循環促進ケア	講義
15回目	1. 終了試験	筆記試験
評価方法	筆記試験　100％	
受講生に対するメッセージ	身体の内部環境を調整する技術は、直接患者に影響する技術であるため知識が非常に重要です。演習はモデルを用いて行いますが、実際の患者に行うつもりで真剣に取り組みましょう。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院	
参考書		

専門分野・基礎看護学　授業計画

授業科目及び時間数	診療に伴う看護Ⅲ　1単位　30時間（薬物療法）		
開講時期	1年次前期		
担当教員	田村万寿美	実務経験	有

＜科目のねらい＞
　本科目は、治療、処置などの内部環境を調整する技術の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために実施される診療の補助技術に必要な基本的知識と援助技術の方法を習得することがねらいである。
＜到達目標＞
1. 薬物の剤形と特徴を理解し、正しい与薬、薬剤の管理方法を理解する。
2. 薬剤投与の方法を理解し、援助の実際がわかる。
3. 注射の基礎知識を理解し、各注射法の援助の実際がわかる。
4. 輸血管理の基礎知識を理解し、援助の実際がわかる。

授業計画・内容・担当教員		
1回目	1. 与薬の基礎知識 1) 与薬の意義と法律・薬物の吸収経路と体内動態 2) 薬物効果に影響する因子	講義
2回目	1. 誤薬防止と薬剤被爆の防止 1) 看護師の役割・誤薬の起こりやすい状況と対策 2) 抗がん剤暴露の防止	講義
3回目	1. 与薬の種類と援助の実際 1) 経口与薬吸入	演習
4回目	1. 与薬の種類と援助の実際 1) 点眼・点鼻・点耳 2)経皮与薬　3)直腸内与薬	講義
5回目	1. 与薬の種類と援助の実際	演習
6回目	1. 注射の基礎知識 1) 注射法の種類と特徴　2)注射器と注射針 3)注射器と注射針 4)注射の準備	講義
7回目	1. 注射の準備 1) 注射器と注射針の準備　2)薬液の準備	演習
8回目	1. 注射の準備 1プライミング	演習
9回目	1. 注射の実施法 1) 皮内注射　2)皮下注射　3)筋肉内注射 4)静脈内注射	講義・ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ
10回目	1. 注射の実施法 1) 輸液速度の調整 2)輸液ポンプ・シリンジポンプ	演習・ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ
11回目	1. 注射の実施法 1) 点滴静脈内注射	演習・ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ
12回目	1. 注射の実施法と与薬の援助 1) 皮下注射　2)筋肉内注射　3)静脈内注射 4) 直腸内与薬　5)点滴静脈内注射 6)輸液ポンプ・シリンジポンプ	演習
13回目	1. 注射の実施法と与薬の援助 1) 皮下注射　2)筋肉内注射　3)静脈内注射 4) 直腸内与薬　5)点滴静脈内注射 2) 6)輸液ポンプ・シリンジポンプ	演習
14回目	1. 輸血管理 1) 輸血の種類 2)輸血の取り扱い 3)輸血時の留意点と観察	講義・ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ
15回目	終了試験	筆記試験
評価方法	筆記試験　100％	
受講生に対するメッセージ	講義が中心ですが、演習も含みます。演習はモデルを用いて行いますが、実際の患者に行うつもりで真剣に取り組みましょう。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院	
参考書		

地域・在宅看護論（講義 6 単位　実習 5 単位）（専門分野）

１．地域・在宅看護論の考え方

他国に類をみない早さで進展する少子・超高齢社会への移行及び疾病構造の変化に伴い、医療機関は治療に特化し、地域で生活しながらリハビリテーション、症状のコントロール、看取りなどの支援が必要となっている。これまでの、「治す医療」から「治し支える医療」へ転換し、住み慣れた地域で、自分らしい生活を人生の最後まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの推進に向け、多様な場でのケアが必要となる。各種サービス機関と多職種がチーム医療を展開することが求められる。

地域・在宅看護は、地域で生活するすべての人が自宅やそれに準じた環境で生活できるよう、症状に応じた適切な医療の提供、相談、指導、のぞむサービスの提供、生涯にわたる健康づくりの支援をすることである。それは、保健・医療・福祉のあらゆる面から対象およびその家族に対して、「生活の質」の向上を目指す支援となる。

人間としての奥深さを理解し、地域で生活し続けることができるよう、ケアマネジメントを学び、自己決定や生活の再構築を支援していく方法を学習する。各健康段階に応じた適切な看護ができるよう、対象を取り巻く環境やシステム、人的・物的資源の活用、地域のネットンワークの構築に向けても専門性を発揮し役割を担えるよう学習を進めていく。

２．目的

地域で生活する人々、地域で生活しながら療養生活をする人々、あるいは障がいをもちながら生活する人々とその家族を理解し、それぞれの環境に準じた場で生活できるよう看護（支援）することを学ぶ。

３．目標

１）地域で生活する人々の健康と生活を支える看護を知る。
２）地域・在宅看護論の目的・特性を理解する。
３）在宅療養生活する対象や家族の自己決定権を尊重しながら、その人らしい生活を支援する重要性を理解する。
４）在宅療養生活する対象や家族を支える社会資源の活用及び多職種との連携や協働の必要性を理解する。
５）対象、環境に応じた在宅看護実践の技術を学ぶ。
６）対象の療養状態に応じた看護・継続看護を実施する。

４．科目

地域・在宅看護概論	地域で生活する人々を支える看護
地域で生活する人々の環境と看護	地域で生活する人々を支える看護実践プロセス
地域で生活する人々を支える看護技術	チーム医療論

専門分野　地域・在宅看護論　授業計画

授業科目及び時間数	地域・在宅看護概論　1 単位　15 時間		
開講時期	1 年次　前期		
担当教員	大石敦子・大畑浩美	実務経験	有

＜科目のねらい＞

療養の場における看護は、社会の変化に伴い刻々と変化していく制度や地域包括ケアシステムを基盤とし、地域全体を見渡し、ケアを展開する役割を期待されている。このような役割を理解するためには、地域で生活する人々について理解し、その人々を支援することを学ぶ必要がある。これまでの看護の変遷やその社会背景をはじめ、生活する人々を支える看護の目的・基本的な理念や関連する概念を理解し、対象と家族を含めた支援の在り方を知る。

＜到達目標＞

1. 地域で生活する人々を知る。
2. 生活する人々への支援を通し、地域・在宅看護の機能と役割を理解する。

授業計画・内容・担当教員		
1 回目	1. 地域・在宅看護が必要とされる社会的背景と役割	講義（大畑）
2 回目	1. 生活と看護 ・看護の対象と場 （看護の対象としての家族、家族理論の理解） 2. 環境と健康	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ （大畑）
3 回目	1. 地域・在宅看護の倫理と基本理念、対象者の権利保障	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ （大畑）
4 回目	1. 地域・在宅看護における療養の選択	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ （大畑）
5 回目	1. 地域・在宅看護の目的と役割	講義（大畑）
6 回目	1. 地域・在宅看護の提供方法及び意思決定支援 2. 療養の場の移行	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ （大石）
7 回目	1. 地域・在宅看護の制度 2. 発展の経緯とケアマネジメント 3. 介護保険制度 4. 訪問看護制度・訪問看護サービスの提供	講義・演習（大畑）
8 回目	終了試験	（大畑）

評価方法	筆記試験 100%
受講生に対するメッセージ	授業は個人ワーク、グループワークを中心に行う。このワークでの学びが試験評価に反映されるので、積極的に取り組んでほしい。
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論 1　地域・在宅看護の基盤　医学書院
参考書	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論 2　地域・在宅看護の実践　医学書院

専門分野　地域・在宅看護論　授業計画

授業科目及び時間数	地域で生活する人々の環境と看護　　1単位　30時間		
開講時期	2年次　前期		
担当教員	大畑浩美	実務経験	有

＜科目のねらい＞

在宅の環境は個別性に富む。療養者の疾患や障害も多様であり、療養者と家族の生活様式もさまざまである。こうした療養者と家族の個別性を尊重しながら、生命活動、生活活動、そして社会活動を可能にするような働きかけが必要となる。まずは、人の生活を中心とした環境の変化を捉え、環境と人の生活との相互作用や、環境が人の生活と健康に与える影響とその対策について学習を深める。地域の調査を通し地域の特性と人々の健康について探求する。

＜到達目標＞

1. 人の生活にかかわる環境の変化について説明できる。
2. 生活環境が人の健康に与える影響と支援を具体的な例を通して説明できる。
3. 調査から課題をみつけ、解決に向けて提案ができる。

授業計画・内容・担当教員

1回目	1. 地域（静岡市）の健康、福祉について （健康な暮らしと環境/オリエンテーション）	講義・演習
2回目	健康と環境のアセスメント＜調査準備＞	講義・演習
3回目	健康と環境についてのフィールド調査	演習
4回目	健康と環境についてのフィールド調査	演習
5回目	健康と環境についてのフィールド調査	演習
6回目	フィールド調査、内容の検討、 関係者機関に交渉しつつ内容の調整充実	講義・演習
7回目	地域の健康支援を学ぶ 調査する関係者機関に交渉しつつ内容の調整	講義・演習
8回目	健康支援の実際（現場）	演習
9回目	健康支援の実際（現場）	演習
10回目	健康支援の実際（現場）	演習
11回目	健康支援の実際（現場）	演習
12回目	課題の探求	演習
13回目	健康支援の実際（現場）	演習
14回目	まとめ	演習
15回目	地域（静岡市）にまなぶ健康支援の実際とより健康な生活に向けての提案（プレゼン）	プレゼンテーション

評価方法	パフォーマンス評価（70%）レポート（30%）
受講生に対するメッセージ	講義・演習を含む科目であり、グループワークが中心となる。外部施設に出向き体験をする内容なので、その場、状況に応じた身なり、言葉遣い、学習姿勢で臨んでほしい。さらに、この演習の取り組み態度評価にピア評価を取りいれていく。
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論1　地域・在宅看護の基盤　医学書院
参考書	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論2　地域・在宅看護の実践　医学書院

専門分野　地域・在宅看護論　授業計画

授業科目及び時間数	地域で生活する人々を支える看護技術　1 単位　30 時間		
開講時期	2 年次　前期		
担当教員	大坪千秋・杉山佳菜子・大畑浩美	実務経験	有

＜科目のねらい＞

在宅の環境は個別性に富む。療養者の疾患や障害も多様であり、療養者と家族の生活様式もさまざまである。こうした療養者と家族の個別性を尊重しながら、療養者の身体的・生理的基盤である生命活動、生活の基盤となる生活活動、そして社会活動を可能にするような働きかけが必要となる。その働きかけの基礎となる在宅看護実践の基本的技術を学ぶ。

＜到達目標＞

・在宅看護の目的・特性を理解し、対象や環境に合わせた在宅看護実践の基本技術を身につける。

授業計画・内容・担当教員		
1 回目	1. 療養者や家族を支援するためのコミュニケーション 1）在宅看護（訪問看護）で心がけること：訪問時のマナー	講義・演習（大坪）
2 回目	1.　在宅におけるフィジカルアセスメント 1）観察、フィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメント 2)症状、徴候のアセスメント（心不全・意識障害など）	講義・演習（大坪）
3 回目	1. 生活環境の調整技術 2. 在宅での移動・移乗の特徴 3. 在宅における移動・移乗の介助に関するポイント	講義・演習（大坪）
4 回目	1 排泄（摘便）及び栄養改善のケア	講義・演習（大坪）
5 回目	1. 輸液	講義・演習（大坪）
6 回目	1. 在宅中心静脈栄養法	講義・演習（大坪）
7 回目	1. 褥瘡予防、褥瘡処置	講義・演習（杉山）
8 回目	1. ストーマ管理	講義・演習（杉山）
9 回目	1. 在宅人工呼吸療養・非侵襲的陽圧喚起療法	講義・演習（大畑）
10 回目	1. 在宅酸素療法	講義・演習（大畑）
11 回目	1. 疼痛緩和	講義・演習（大畑）
12 回目	1. 地域リハビリテーション推進センター（通称；リハパーク）見学	演習（リハパーク講師）
13 回目	1. 生活演習（入浴介助含む）	演習（大畑・大坪）
14 回目	1. 見学・演習のまとめ及び発表会	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ
15 回目	終了試験	（大畑）
評価方法	演習レポート（10%）終了試験（大畑 10% 大坪 70% 杉山 10%）	
受講生に対するメッセージ	講義・演習を含む科目となる。また、グループワークを中心に展開していく。自らの意見を積極的に発言できることを希望する。外部施設に出向き体験もある。その場に応じた身なり、言葉遣い、学習姿勢で臨んでほしい。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論 1　地域・在宅看護の基盤　医学書院	
参考書	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論 2　地域・在宅看護の実践　医学書院	

専門分野　地域・在宅看護論　授業計画

授業科目及び時間数	地域で生活する人々を支える看護　1 単位　30 時間		
開講時期	2 年次　後期		
担当教員	大畑浩美・増田恵美・丸山久美子・原との子 ・成澤義郎・大坪千秋	実務経験	有

＜科目のねらい＞

在宅看護における安全と健康危機管理について学び、日常生活援助ならびに医療的援助に活かせるようにする。また、様々な事例から、療養者と家族、それらを取り巻く環境と状況に応じた看護の実際を学び、既存の知識を応用し、多職種と連携することで看護の実施に結びつけることができることを理解する。

＜到達目標＞

1. 在宅で療養生活をする対象に応じた看護と家族（介護者）への看護を理解する。
2. 在宅療養を支える社会資源の活用と多職種との連携の必要性を理解する。

授業計画・内容・担当教員		
1 回目	1.　在宅療養生活の特徴 「済生さんが安全に奥さんと共に療養生活を送れるために、パンフレットおよびマニュアルを作成しよう!」 1）済生さん宅を訪問しよう!」 2)「済生さんが安全かつ確実に薬を飲めるよう工夫しよう！」 3)「プロの技を提供しよう!おむつの当て方と爪切り編」 4)「大切な人を感染症から守ろう!」 5)「さあ大変!災害に向けての準備及び対応を考えよう」	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
2 回目	1. パンフレットおよびマニュアル作り	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
3 回目	1. 発表会	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ
4 回目	1. 在宅看護の制度 （介護保険制度・訪問看護制度・訪問看護サービスの提供） 2. 発展の経緯とケアマネジメント	講義
5 回目	「あなたなら自分の最後をどう過ごしたいですか?」 1. 人生の最終段階を迎えた方への看護を考える	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（増田）
6 回目	1. 人生の最終段階を迎えた方への看護の展開	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（増田）
7 回目	「おじいちゃんが夕方になると徘徊しているの、どうしたらいい」と相談されたらどうする?　　1. 認知症で療養する対象の看護	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（大坪）
8 回目	1. 認知症で療養する対象の看護の展開	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（大坪）
9 回目	「治療法が見つからない病気にかかってしまったら…」どうする。 1. 神経難病で療養する対象の看護	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（丸山）
10 回目	1. 神経難病で療養する対象の看護の展開	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（丸山）
11 回目	「訪問したら、お家の中がぐちゃぐちゃ!片づけられないで居る」 1. 精神障がいで療養する対象の看護	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（成澤）
12 回目	1. 精神障がいで療養する対象の看護の展開	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（成澤）
13 回目	1. 療養する小児への看護	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ（原）
14 回目	1. 療養する小児への看護　事例を使って社会資源を知ろう	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
15 回目	終了試験	（芝口)）
評価方法	パンフレット・マニュアル作成（個人 10%/・ｸﾞﾙｰﾌﾟ 10%･ﾌﾟﾚｾﾞﾝ 5%）講師担当（各 15%）	
受講生に対するメッセージ	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸを中心に進めていく講義となる。各自主体的に取り組んでほしい。この科目は 5 名の外部講師を招いての講義となる。今現場で起こっていること、体験談、トピックスを織り込でのお話も聞ける貴重な機会となることを意識して臨んでほしい。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論 1　地域・在宅看護の基盤　医学書院	
参考書	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論 2　地域・在宅看護の実践　医学書院	

専門分野　地域・在宅看護論　授業計画

授業科目及び時間数	地域で生活する人々を支える看護実践プロセス　1単位　30時間		
開講時期	2年次　後期		
担当教員	大畑浩美	実務経験	有

＜科目のねらい＞

地域の特性を知り、その地域で暮らす、在宅療養者とその家族が、疾病や障害による機能的な制約や困難がありながらも保健・医療・福祉の支援や地域社会の協力を得てその人らしく生活を送っていいけるよう、看護の展開方法を具体的に学ぶ。

＜到達目標＞

1. 在宅看護の展開方法が理解できる。
2. 在宅で療養生活を送る対象に応じた看護がわかる。

授業計画・内容・担当教員		
1回目	1. 地域連携システム」における看護機能と役割を理解する。頭づくりをしよう！	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
2回目	1. データより地域住民（静岡市）の生活/健康状況や地域住民の生活を支える社会資源を知る	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
3回目	1. データより地域住民（静岡市）の生活/健康状況や地域住民の生活を支える社会資源を知る	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
4回目	発表会	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ
5回	訪問看護制度と機能を理解するための頭づくりしよう！ 1. 在宅看護に関する制度 介護保険/医療保険制度/障害者支援制度	講義・演習
6回目	1. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割 「静岡型地域包括ケアシステムとは」	静岡市出前講義
7回目	1. 在宅看護に関する制度及び地域包括ケアシステムにおける看護の役割　まとめ及び知識の確認	演習
8回目	1. 療養移行支援 ・病院の病床機能とその看護の特徴/療養移行支援の基本	講義・演習
9回目	1. 訪問看護の制度と機能 ・在宅療養への移行支援	講義・演習
10回目	1. 在宅看護における家族支援 ・家族のアセスメント方法、支援方法	講義・演習
11回目	1. ケアマネジメントの展開 ・ケアマネジメントの目的と機能、提供方法、 多職種との連携方法	講義・演習
12回目	1. 在宅看護過程の展開 看護過程の目的、特徴、展開方法	講義・演習
13回目	1. 在宅看護過程の展開 看護過程の目的、特徴、展開方法	講義・演習
14回目	1. 在宅看護過程の展開 看護過程の目的、特徴、展開方法	講義・演習
15回目	終了レポート作成・実習オリエンテーション	試験・講義
評価方法	・終了レポート「在宅で療養する方を支援するために必要なこと」A4 1枚程度（40%） ・看護過程（演習課題）60%	
受講生に対するメッセージ	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸは統計資料を読み解いて課題を見つける力の育成を図る。ｸﾞﾙｰﾌﾟで協力しながら進めていくことが必要となる。積極的に意見交換をしてほしい。看護過程演習は実習で培った知識を統合し応用することが求められる。全講義出席できることが望ましい。	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論1　地域・在宅看護の基盤　医学書院 系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論2　地域・在宅看護の実践　医学書院	

専門分野　地域・在宅看護論　授業計画

授業科目及び時間数	チーム医療論　1 単位　15 時間		
開講時期	3 年次　前期		
担当教員	大畑浩美	実務経験	有

＜科目のねらい＞
　対象の健康、生活を守る保健医療福祉の提供に向けて、お互いの職の専門性を活かしながら、対象の目標達成にむけて、多職種が連携し、目標の実現を目指す力を身につける
＜到達目標＞
1. 多職種の役割と責務について多職種と共有する。
2. 対象者中心の倫理観をもつ。
3. 対象の目標を共有するため、多職種間のコミュニケーション能力を身につける
4. 対象者の目標達成のために、多職種と共に考えることができる。
5. 多職種連携・協働にむけ今後の展望を語れる。

授業計画・内容・担当教員

1 回目	1. 他職種の役割・機能の理解	講義
2 回目	1. 看護師の役割機能と連携を考える。	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
3 回目	1. 他職種の専門職者から活動及び協働の実際を学ぶ ・薬剤師・診療放射線技師・管理栄養士 ・介護福祉士　　作業療法士	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
4 回目	1. 他職種の専門職者から活動及び協働の実際を学ぶ ・薬剤師・診療放射線技師・管理栄養士 ・介護福祉士　　作業療法士	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
5 回目	1.　他職種の専門職者から活動及び協働の実際を学ぶ ・薬剤師・診療放射線技師・管理栄養士 ・介護福祉士　　作業療法士	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
6 回目	1. 専門連携学習 準備、実際	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
7 回目	1. 専門連携学習 実際、成果まとめ ２. 看護師の役割の考察	講義・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
8 回目	終了試験	

評価方法	筆記試験 100%
受講生に対するメッセージ	授業は個人ワーク、グループワーク、演習を含めて行う。積極的に取り組んでほしい。
テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論１　地域・在宅看護の基盤　医学書院
参考書	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論２　地域・在宅看護の実践　医学書院